ライオン誌（毎月20日発行）第52巻第9号 2010年2月20日発行 第3種郵便物認可

LION

IN JAPAN Official publication of Lions Clubs International

WWW.THELION-MAG.JP MARCH 2010 3

THEME 木を植えるライオンズ

植樹は日本のライオンズが熱心に取り組んできたアクティビティの一つ。
環境問題への意識が高まる中、地域の失われた森の再生や、
子どもたちに環境意識を育てることを目的に植樹に取り組むクラブは多い。

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

初級編・ライオンズクラブ入門

改訂版
第3版第1刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判　64ページ　1部400円・送料実費

中級編・クラブ運営の基礎知識

第3版第1刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判　64ページ　1部400円・送料実費

上級編・リーダーシップを養う

第1版第3刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判　64ページ　1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号をお忘れなく。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門 …………□部
●クラブ運営の基礎知識 …………□部
●リーダーシップを養う …………□部
●ウィ・サーブ …………□部
●ライオニズムよ永遠に …………□部
●『ライオン』誌創刊号復刻版 …………□部

地区名　33　-	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒　-		お電話番号

THE LION MAGAZINE IN JAPAN
March 2010, Vol.52 No.9

We Serve CONTENTS

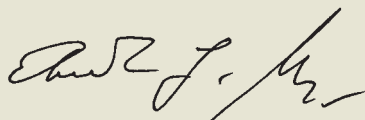
2010年3月号　表紙
山梨県笛吹市
桃の花
写真／鈴木秀晃
■詳細はウェブマガジンで
https://www.thelion-mag.jp

MESSAGE FROM THE PRESIDENT

「会員増強二重戦略」の推進を

端から見ると世界一悲観的な状況にあったと言っても過言ではないヘレン・ケラーは、次の言葉を残しました。

「楽観主義こそが物事を成功に導く信仰です。希望と確信がなければ何事も成し得ません」

ライオンズの皆さん、私たちの奉仕活動のあらゆる事例が、輝かしい楽観主義と確信の瞬間だと言えるのではないでしょうか。私たちは地域を改善し人々の生活をより良くすることが出来ると信じています。まさしく、それこそがライオンズが93年の間、変わらずに成し遂げてきたことです。

この楽観主義をライオンズのすべての仲間と共有し一つになる必要があります。今、力強い招請努力のおかげで、世界中で会員数は上向きになっています。しかし、すべてのクラブが会員維持のためにもより一層の努力をして頂けたら、更に良い結果となったことでしょう。

皆さん、「会員増強二重戦略」にぜひ取り組んでください。クラブ数を増やすと同時に、各クラブの会員維持にも努めるのです。これは、それぞれのクラブでメンバー一人ひとりが取り組むことによってのみ成し遂げられることです。ライオンズから去っていく人々は、皆さんのクラブの会員であり友人です。彼らの気持ちがどんなものであったか、彼らを楽しませ満足させるものは何であったか、皆さんはご存じのはずです。もちろん、ライオンズのような大きな組織では会費滞納、クラブの解散、死亡などにより毎年多くの会員を失うものです。しかし、昨年度の退会会員のうち実に40%は、グッドスタンディングの会員でした。彼らは単に、クラブが彼らの求めるものと違っていたために立ち去る決心をしたのです。

会員維持努力は入会の時から始まります。まず、ライオンとしての資質がある会員を招請すること。奉仕活動への意欲があり、会費の支払いが可能で、地域である程度地位を得ているような人々です。その資質のある人々を真のライオンへと導きます。最初の4年間が肝心です。新会員がクラブから歓迎され、大切に思われていると感じる環境作りを心掛けましょう。彼らの意見に耳を傾け注意を払います。例会は時間に正確で、かつ活気があり興味深いものにしましょう。アクティビティは頻繁に、クラブが直接かかわって実施すべきです。すべてのクラブが、いつも、このような例会や奉仕活動を行っていると胸を張れるようにしようではありませんか！　皆さん自身の銀杏の木を植え、「MOVE TO GROW」を継続していきましょう。

国際協会にはクラブの自己評価キットや、クラブ活動や例会を活性化するためのパンフレットなど役立つ資料が多数あります。クラブが良くなれば自然と会員維持の向上につながります。

会員維持はライオンズが更に奉仕活動を推し進め、クラブが力強く健全であるために必要不可欠です。社会に奉仕することが私たちの目的ですが、そのためには、クラブが会員にとって魅力あるものであり続けるために私たち自身がクラブに対して「奉仕」しなければなりません。ライオンズは常に試練に立ち向かい、必ず乗り越えることを私は知っています。会員維持を新たな試練だと考え、じっくりと知恵を絞り、取り組んでいこうではありませんか―Move to Grow!

2009-10年度国際会長
エバハルト・J・ヴィルフス

THEME

木を植えるライオンズ

植樹は日本のライオンズが熱心に取り組んできたアクティビティの一つ。
環境問題への意識が高まる中、地域の失われた森の再生や、
子どもたちに環境意識を育てることを目的に植樹に取り組むクラブは多い。
そんな活動の中から四つのクラブの取り組みを取材した。

緑豊かな郷土を守り育てる

日本は世界でも有数の森の国だ。国土に占める森林面積の割合を示す森林率は、世界の平均が30％なのに対して日本は67％。先進国の中ではフィンランドに次いで高い。小さな列島でありながら、気候は北の亜寒帯から南は亜熱帯まで幅広く、地形は急峻な山岳地帯から海岸まで変化に富んで、その中に多様な森を育んでいる。

自然の営みの中で、森林はさまざまな役割を果たしている。木々は地球温暖化の元凶となる二酸化炭素を吸収して酸素を放出する。降り注いだ雨を受け止め、一時的に土中に蓄えて天然のダムとなる。深くしっかりと張った根は洪水や土砂崩れを防ぐ。多くの生き物に糧を与えすみかとなって、生物の多様性を支えてもいる。私たち人

間にとっては、食糧や木材を供給する大切な資源であり、安らぎを与えてくれる場所でもある。

遠い祖先の時代から、私たちは豊かな森の恵みを受けながら暮らし、それぞれの地域で独自の文化を育んできた。

しかし今、身近にあった里山の森はどんどん姿を消している。戦後の木材需要に応えるために一斉に植林されたスギやヒノキの人工林の多くは、林業の不振で手入れされないまま放置され、荒れ果てている。大きな被害をもたらした洪水や土砂崩れは、森林が本来持っている保水や土壌保全の機能を失ったことが、その一因とも考えられる。

かつて、植樹や緑化の活動には環境の美化や市民に憩いの場を提供するといった目的が多かったように見受けられる。ライオンズクラブでも、公園の緑化や街路樹の植栽といった活動が多かった。しかし環境問題への関心が高まるにつれて、最近では地域に本来あるはずの森を再生させようという取り組みが増えてきた。ライオンズの活動では、地域の人たち、特に子どもたちと共に郷土の森を取り戻そうという動きが活発になっている。それはただ木を植えるだけでなく、次の世代に郷土の自然を愛する心を伝え、育むことでもある。

百年の計 富士山に緑を返す

取材／河村智子

霊峰に見守られつつ汗を流す

御殿場ライオンズクラブ（勝間田一博会長／96人）の6月第1例会は、富士山例会と決まっている。朝9時前、御殿場口新五合目に集まったメンバーは長靴に作業着姿。終了後に行われる植樹作業のため準備万端整えている。友好クラブの神奈川県・横浜梅櫻ライオンズクラブからは会員3人が応援に駆けつけた。昨年6月3日の例会日は曇り空ながら、くっきりとした富士の稜線を仰ぎ見つつ、すがすがしい例会となった。

植樹はこれが18回目。登山口周辺の地表にはうっすらと緑の帯が見える。過酷な環境で植物の成長は遅いが、苗はしっかりと根を張っている。例会が終わる頃、毎年協力してくれる御殿場市や、五十雀山歩会の人たち、そして市立御殿場西中学校の2年生が到着。総勢約300人が参加して作業が始まった。

中学生たちはまず、バッコヤナギの苗を斜面に運び、以前植樹した場所の空いたスペースに植え付けていく。一方、ライオンズと森林組合の人たちは、新たな植樹場所に苗床を作っていく。砂れき地のため、これがなければ苗は雪崩や強風で簡単に流されてしまう。丸太を背負って斜面を登り、くいで固定していく重労働。木槌を振るうとすぐに汗が噴き出してくる。新しい苗床にも植え付けし、たっぷりと水をまいて作業は終了した。

この日植えた苗はバッコヤナギ2千本とフジアザミ100本。クラブがこれまでに植えた苗は、約4万本にも上る。

森の回復を手助けするために

富士山登山の主要な登山口には、河口湖口（吉田口）、富士宮口、須走口、御殿場口の四つのルートがある。このうち南東斜面にある御殿場口は、標高1440㍍と最も低い位置にある。新五合目と呼ばれているが、実際の高さ

は二合目ぐらいに相当する。登山口から山頂を望むと、斜面には砂れきに覆われ荒涼とした山肌が延々と続いている。頂上までの距離が長く上りは苦し

い道のりだが、下りは斜面を飛ぶように駆け下りる爽快な砂走りルートだ。

登山口からは富士山頂の左下に見える宝永山は、1707年に起こった宝永大噴火で誕生した。噴火は16日間にわたって大量の火山れき、火山灰を降らせ、麓の村々に深刻な飢饉を引き起こした。東南斜面に広がっていた森林地帯は、厚い灰の下に埋まった。

噴火から300年の長い年月をかけて、山麓ではゆっくりと植生が回復してきた。高度の低い所から高い所に這い上がるように徐々に緑が戻り、御殿場口のすぐ下辺りまでは森林が広がっている。そこから上は所どころに緑が点在している程度。土壌に栄養分がなく、豪雨や雪崩による崩落が後を絶たないため、植物が根付きにくいのだ。

御殿場ライオンズクラブの取り組みは、自然のサイクルによる森の回復を手助けしようというものだ。御殿場の人々は生活用水を富士山の地下水に頼っている。植樹は大切な水源の山に緑を取り戻す活動でもある。

この植樹事業が発表された当初は、その効果を疑問視する声もあったという。そして、それが大変な難事業であることは当のクラブがよく承知していた。だからこそ計画は、実施期間100年という壮大なものになったのだ。

試行錯誤の末に根付いた苗

事業に着手した91年度、クラブは2人の調査検討委員を任命して準備に当たらせた。地元の植物学者に助言を求め、営林署の指導を受けながら植樹方法を検討していった。植える植物は砂れき地に自生するバッコヤナギとし、挿し木用に枝を採取して苗を育てて現地に戻すことにした。バッコヤナギの苗が定着すれば、やがては他の植物も増えていくはずだ。

過酷な環境の中で苗が育ちやすいような植樹方法も考えた。斜面に間伐材の丸太を苗床として置いて、くいで固定し、その下側に苗を植え付ける。丸太は昼は強い日差しをよけ、夜には湿度を保って苗の乾燥を防ぎ、やがては朽ちて肥料になる。更に、砂れき地を荒らすオフロードバイクの侵入を防止する効果も期待した。

第1回の植樹は92年6月に実施。前年秋から育てた苗木200本を植えたが、苗の生育が足りなかったせいか3割が枯れた。2年目は地中深く根を張

苗木は、ほ場で1年半掛けて十分に
生育させてから植樹する

るフジアザミも植えたが、苗を根付かせるには十分な水やりが必要でこの活動に向かないことが分かった。その翌年3月には大規模な雪崩が発生し、それまでに植樹した苗が苗床ごとすっかり流されてしまった。「最初はとにかく試行錯誤の連続でした」と、調査検討委員を務めたL勝又三郎は当時を振り返る。

百年の計を 次の世代に受け継ぐ

クラブが植樹を続ける上で、行政や地域の人たちとの連携は不可欠だ。たくさんの木を植え緑を増やすには、人手は多いに超したことはない。しかしクラブとしては、作業人員は200人ぐらいが適当だと考えていた。

「人手が増えれば多くの苗を用意する必要があり、そのために多くの枝を切って元木を弱める結果になりかねない。長期的な事業だけに適正な規模で続けなくてはなりません」と、L勝又は説明する。御殿場ライオンズクラブの活動が順調に進み始めると、その後に続いて緑化に取り組む民間団体も増えた。そうした団体から共同事業を提案されたこともあったが、クラブは地道に独自のペースを守って活動している。

ライオンズと共に植樹を行う御殿場市立西中学校は、市内で最も富士山に近い場所にある学校だ。99年に同中から協力の申し出があり、それ以来、毎年6月の植樹と10月に行う挿し木用の枝の採取に参加。校庭に設けたほ場でバッコヤナギの苗の育成も行う。メンバー所有の畑を借りたクラブのほ場と合わせ、毎年2千本の苗木を育てている。枝を採取するための親木の育成も行っているところだ。

「百年の計ということは、我々だけで出来ることではありません。次の世代に引き継がなければならない。御殿場ライオンズクラブは来年で50周年を迎えますが、この活動を続けていくためにも、若い会員を育て、活力あるクラブであり続けたいと考えています」

と勝間田会長は話している。

兵庫県・明石ライオンズクラブ

ドングリ千年の森をつくる

取材／鈴木秀晃

毎年秋になると現れる、ドングリ拾いの集団

JR山陽本線・明石駅のホームから、2基の三層櫓と、それを結ぶ白壁の城壁が見える。

江戸初期に、徳川家康の外孫に当たる小笠原忠真が築城した明石城だ。現在、城跡は県立明石公園として整備され、櫓や堀、石垣などの歴史遺産と共に、各種スポーツ施設や文化施設が点在し、広く市民に親しまれている。

また「日本さくら名所100選」に選定されるなど、春にはソメイヨシノが咲き誇り、多くの花見客が訪れる。園内には他にも多くの樹木や植物が繁茂し、駅前という立地でありながら野趣にあふれている。特にドングリの木が多く、春の主役が桜なら、ドングリは秋の隠れた主役となっている。

そんな明石公園に、ここ数年、秋になると、公園のドングリを拾う集団が現れる。

集団は「兵庫ドングリ千年の森をつくる会」で、その輪の中心には明石ライオンズクラブ（小谷泰朗会長／59人）のライオン佐土原千尋がいる。会は「今出来ること、私たちに出来ること、そして未来につながること」の発想から生まれ、身近な環境運動として2001年3月に発足した。

会員は1株500円の株券を購入し、会に加わる。株主は現在、北は北海道から南は九州まで、年齢層も1歳から80歳までの老若男女約千人に上る。

活動はドングリ拾い、育苗、植樹、下草刈りなど、年に数回実施され、その都度、株主たちが集まって作業に当たる。メーンのドングリ拾いや植樹会は、これまで8回実施しており、植えたドングリの苗木は9300本に及んでいる。

実はこの運動、もともとは遠く離れた九州・宮崎県の都城市で生まれた。都城は県南西端、宮崎と鹿児島の中間地点にあたる主要都市で、市域中央を大淀川が流れ、西は霧島山地、東は鰐塚山地に囲まれている。

昔は豊かな自然に恵まれた地であったが、90年代前半の河川水質調査で大淀川は九州ワースト1に陥落。また、かつては照葉樹林で覆われていた上流域も、いつしか山が荒れ、自然の森は消え去っていた。

そこで、荒れた山を再生し、自分たちの生活を育む自然風土を後世に引き継ごうと「どんぐり千年の森をつくる会」が立ち上がった。1996年のことだ。その提唱者の一人が、都城市に住むライオン佐土原の父だった。

その後、兄やライオン佐土原など息子世代も同調、活動が活発化した。特に兄が市役所に勤務していたこともあり、運動が周辺自治体へ波及するのも早く、今では県内全域に広がっている。

ライオンズとの出合いで、運動の輪が広がる

都城にいた当時は、父や兄と一緒に活動していたライオン佐土原だが、起業して明石に会社を設立したのを機に、兵庫県でも同じ運動を起こすことにした。取引先などに話をして回り、最初は8人の賛同者で「兵庫ドングリ千年の森をつくる会」がスタートした。

やり方はすべて分かっているので、会さえ立ち上がれば、後は活動あるのみ。4月から早速、株主募集を開始し、その年10月には、明石公園で第1回のドングリ拾いも行った。植樹は当初、市内の公園で実施。第1回は02年3月、市の西寄りにある金ケ崎公園に1300本、第2回は03年3月、海沿いの明石海浜公園に800本を植えた。

この頃から株主も増えてきたため、

秋のドングリ拾いでは、約50キロ～70キロ（1万個～1万5千個）が集められる。それを3日間、水につけ、浮いたものをはじく。ここで3割ほどに減り、更に大きさで選別して、苗木となるのはそのまた3割程度。それをボランティアに育苗してもらう。写真は自社の敷地でドングリの苗を育てるライオン佐土原

ライオン佐土原たちは運動の原点である「荒れた山の再生」を目指すことにした。まず、植樹場所の選定を始めたが、なかなか適当な候補地が見つからない。

そんな折、運動に参加していた明石ライオンズクラブの会員が仲介してくれ、県が管理する権現ダム周辺に植樹出来ることになった。04年の第3回から06年の第5回まで、3年続けて権現ダムに苗木を千本ずつ植え、活動の流れが定着した。また、これをきっかけにライオン佐土原は明石ライオンズクラブに入会。同時にクラブのアクティビティにも取り上げられ、活動はいよいよ本格化した。

山と町の交流植樹を、風土づくりにつなげる

07年、いったん植樹場所を明石に戻した後、08年からは兵庫県中西部にあ

る宍粟市を拠点に森づくりを行うことになった。同市は、市域の大部分を山林が占め、市北部には名瀑の宝庫・氷ノ山後山那岐山国定公園を代表する滝で、日本の滝百選にも選定されている原不動滝がある。

そんな風光明媚な土地だが、この辺りは過疎化が著しく、原地区は高齢化率42%。限界集落に近づき、地域だけでは山を守れない状況になっていた。

そこで原地区の人々は、山と町、上流と下流の交流を図ろうと、町の人に山での植樹体験を呼び掛けた。宍粟森林組合では、「花と実」をキーワードに自然と共生する森づくりに取り組んでおり、これはドングリ千年の森をつくる会の考えとも合致していた。更に山林の荒廃は上流部だけの問題ではなく、下流域にも影響を及ぼす。

昨年8月の兵庫県西部豪雨災害では、宍粟市や下流の佐用町で大きな被害が出た。確かに発端は100年に一度の豪雨であったかもしれないが、山に保水力があれば、あれほどの被害にはならなかっただろうとの意見も聞かれる。

ドングリ千年の森をつくる会では、これらも踏まえ、荒れた山を自然植生であるドングリの森に再生していくことが必要だと考えている。また「風土」とは単なる自然環境ではなく、地域の社会環境や精神文化を含むものであり、それが人間形成に大きな影響を与えているとして、運動の更なる推進を図ることを誓っている。

「父たちが作った、宮崎県のどんぐり千年の森をつくる会の元会長が、よく『風土千年、風景100年、景観10年』ということを言われていました。この言葉は、風土づくりには長い年月がかかることと、その重要性を教えてくれています。今、急速に豊かな自然環境が失われると共に、地域特有の文化が失われています。会では、ドングリ株主のネットワークを広げ、風土を築く基盤としての緑豊かな自然環境を取り戻すと共に、緑を大事に守り育てるという地域の共通認識――地域哲学を築きたいと考えています。

1人1株によるドングリの森づくりは、千年をかけて風土を築くという遠大な夢なのです」

とライオン佐土原は語っている。

明石ライオンズクラブはどんぐり拾いや植樹など、実際の活動に参加すると共に、植樹会にはバスを提供し、ボランティアの送迎に当たっている

植樹地では年に数回、下草刈りをしている

昨年6月の植樹に合わせて建立したモニュメント。1年目には生徒が描いた絵をモニュメントにした

福井県・大野ライオンズクラブ

郷土の自然愛する心を受け継ぐ

取材／河村智子

自然豊かな地で始まった中学生の取り組み

日本海に開けた福井県の中で、大野市は最も内陸の奥まった所にあり、岐阜県、石川県との県境に位置している。古くから越前と美濃を結ぶ交通の要所だが、現在も残る城下町の面影は、一向一揆制圧の戦功で大野の地を与えられた織田の武将金森長近が、亀山城と碁盤目状の町を築いて以来のものだ。

日本百名山の一つ荒島岳を始めとする山々にぐるりと囲まれ、例年11月半ばには初雪が降る豪雪地帯。市域の9割近くを森林が占め、福井市の水源となっている。清らかな湧き水も多い。この自然に恵まれた地で、大野ライオンズクラブ（松田重治会長／44人）は地元中学生たちが取り組む「陽明の森プロジェクト」を支援している。

大野市立陽明中学校が全校を挙げて取り組むこのプロジェクトは、2008年から3年計画で3千本の広葉樹を植樹しようというものだ。同校では市内で最も多い426人の生徒が学んでいる。プロジェクトの発端を中出良一校長は次のように話す。

「以前から全校生徒が力を合わせて取り組む活動をしたいと考えていました。そこで、郷土の豊かな自然と環境問題に子どもたちの目を開く体験学習として植樹プロジェクトを計画しました」

ライオンズとして出来ることを

プロジェクトを進めるためには森林組合やPTAなど、地域の協力が不可欠だ。各方面に協力が要請され、植林場所には南六呂師地区にある山林の1・5ヘクタールが提供されることになった。マツ枯れの被害に遭いそのままになっていた斜面で、この地区の山林を管理する共同組合が植樹後の手入れも手伝ってくれることになった。

この時に大野ライオンズクラブの会長だった金森啓造ライオンが同校のスクール・モニターを務めていたことから、プロジェクトの内容はクラブに伝えられた。

ライオンズとして出来ることはないかというクラブの申し出に、学校側からモニュメント作りへの協力を頼まれた。専門技術や重機が必要なため、ライオンズなら専門家がいると見込まれた。クラブは製作協力だけでなくモニュメント用の資材を提供することを決定。更に中学生たちの植樹のサポート役も務めることにした。

「私たちが子どもの頃は周りはすべて落葉樹の山でした。それが戦後一斉にスギが植林され、保水力も落ちた。次の世代に故郷の自然を残し、伝えるためにライオンズが出来る役割を果たしていきたい」と、松田会長は言う。

1年目の08年春にはコナラ千本を植樹。夏は志願した生徒たちで下草刈り、秋には市長による講演と対話集会、冬休みにはエコ・レポート提出と、プロジェクトは年間を通じて続いた。翌09年には5月にカエデ、ミズナラ、クヌギなど千本を植え、8月には2年生全員で下草刈りを実施。また生徒会が中心になって山でドングリの実を拾い集め、苗を作る試みも始まっている。

生徒会長の野田聖くん（3年）は「植樹を体験してからエコへの興味が高まったと思う。買い物にはエコバッグを使うようになりました」と話す。今年は3年計画の最後の年となるが、学校としては来年以降も下草刈りなどの活動を引き続き行うことを検討中だ。

山火事で失われた緑の再生を

愛媛県・今治東ライオンズクラブ

取材／鈴木秀晃

灰と炭だけになったふるさとの山

2008年8月24日の夕刻、愛媛県今治市郊外の笠松山で、たばこの火が原因と見られる山林火災が発生した。

折しも、その夏の四国は深刻な渇水が続いていた。そのため火はすさまじい勢いで燃え広がり、山全体をのみ込んでしまった。

24日夕方から29日まで、消防隊員や自衛隊員ら延べ約3800人が動員され、防災ヘリコプター十数機や消防車など延べ約440台が投入された。が、火勢が強い上、笠松山には消防車両が入れる道がないため、消火活動は困難を極めた。結局、26日に雨が降ったことで火勢が弱まり、同日午後5時、ほぼ鎮火したため、今治市災害対策本部が鎮圧を宣言した。

その時点で発生から丸2日。焼失面積は107ヘクタールに及んだ。

笠松山は、今治市朝倉地区のシンボルとも言うべき山で、標高357メートルの山頂には観音堂もあった。また、瀬戸内海国立公園の一部として遊歩道が設けられ、山側も海側も眺望が開け、多くの人に人気のあるハイキングコースとなっていた。

そんな山が、48時間で灰と炭だけの変わり果てた姿になってしまった。

今治市は早速、笠松山の復旧計画を策定。それによると、2009年からの5カ年計画で、焼失区域のうち67ヘクタールを県などが植栽、12ヘクタールはボランティアの植栽ゾーンとすることになった。その事業費は4億4500万円と見積もられた。

自分たちで郷土を守り育てる心を

09年10月25日、まだ草木がほとんど生えていない笠松山で、今治東ライオンズクラブ（長野隆一会長／53人）による植樹奉仕が実施された。参加したのは同クラブ会員を始め、児童養護施設あすなろ学園の園生、ボーイスカウト今治の隊員、地域づくり研究会「源流」の会員、愛媛を本拠地とする四国・九州アイランドリーグ「マンダリンパイレーツ」の選手、朝倉地区の一般ボランティア、それに翌月、同様の事業を計画していた今治中央ライオンズクラブの会員ら総勢約150人に及んだ。

今治東ライオンズクラブは伝統的に環境問題、特に植樹や緑化に力を入れてきた。地域のシンボルがはげ山となっているのに、黙って見過ごすことは出来なかったのだ。

しかも同クラブは07年にも、山火事ではげ山となった大三島の鷲ケ頭山に、植樹を行っている。この時も市民からボランティアを募って、約150人で2千本の木を山の斜面に植えており、山火事からの再生プロジェクトは経験済み。

今回もそのノウハウを存分に生かし、植樹場所や苗木の選定などを着々と準備。また、当日すぐに作業に取りかかれるよう、前の日には千本の苗木を植樹地点まで運び入れた。

こうした事前準備のおかげで、市民ボランティアの仕事は、穴を掘って苗木を入れ、ペットボトルの水をかけるという簡単な作業だけ。が、肝心なのは作業内容ではない。

確かにこの事業は山火事で失われた緑を再生することが目的だが、そうした形に残るものとは別に、目に見えないものへの期待が込められている。長野会長も、「今回は、日頃アクティビティを通して交流のある、あすなろ学園やボーイスカウトの子どもたちと一緒に植樹することで、未来につながる事業になったと思います」と語る。

そう。荒涼たる山肌に直に触れ、一生懸命汗を流して新しい命を植えたことで、子どもたちは自らの心に、自分たちで郷土を守り育てるという意識を植え付けたに違いない。

2007年に植樹した大三島・鷲ケ頭山

献血

少子高齢化で懸念される輸血用血液の不足。献血推進活動のこれから

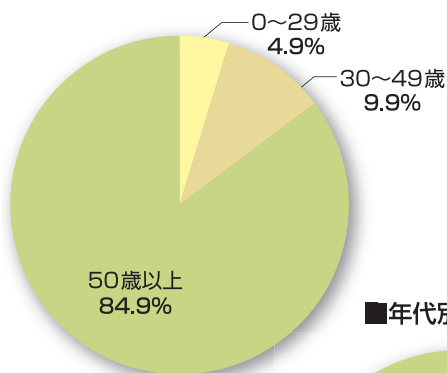
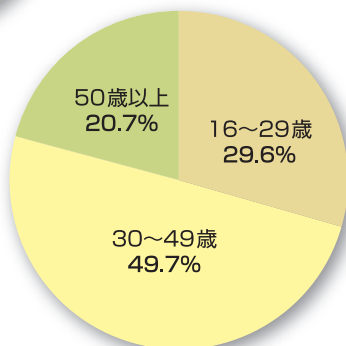
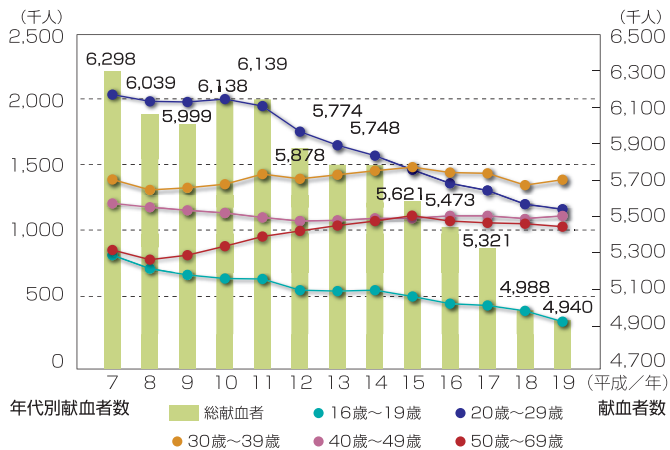
現在のところ、輸血に必要な血液製剤はすべて献血でまかなわれているものの、少子高齢化の影響を受け、将来、血液不足に陥ることが懸念されている。輸血を必要とする高齢者が増える一方で、献血をする若者が減っているという。
日本の年金制度と同じように、若い世代が、多くの高齢者を支えなければならず、破綻しかねないというのは言い過ぎだろうか。何か有効な対策はあるのだろうか。血液を人工的に作ることが出来ない以上、献血に協力してくれる人を増やす他に方法はない。

（取材／渡辺朋和）

安全な血液の供給のため、日本で献血の普及が始まった当初から、全国のライオンズクラブは献血推進に力を注いできた。１９９０年には、前年に設置された昭和天皇記念血液事業基金による昭和天皇記念献血推進賞を受賞している。

少子高齢化時代を迎え、今後どのような献血推進活動が求められているか、日本赤十字社に取材した。

小中学校からの献血教育で関心を高める

日本赤十字社（日赤）血液事業本部献血推進課の菅原拓男課長は、献血量と献血者数の推移をまとめたグラフを示しながら、「表面的には需要に見合った血液の確保が出来ているのですが、献血者数は減少しています。４００ミリリットル献血や成分献血が増え、一人

あたりの献血量が増えたことで需要を賄えているのが実態です」と説明する。

東京都の調べでは、輸血を必要とした人の85％が50歳以上の中高年。今後、高齢者が増えることは必至で、輸血用血液製剤の需要は増えることはあっても、減ることはない。

国立社会保障・人口問題研究所が発表する人口推計では、２００７年に65歳以上の高齢者は10人に２人だったのが、30年には３人、55年には４人になるとしているそうなれば、いや応なしに人口比率の少ない若い世代が、多くの高齢者を支えなければならないことが分かるが、加えて献血者が減少していけば、救命医療に重大な支障を来すことになりかねない。

「特に10代、20代の若い人たちの献血が少なくなっていることが心配」

と菅原さんは指摘する。

厚生労働省は、将来にわたり安定して血液製剤を確保するために、08年度に献血推進のあり方に関する検討会を設置し、今後の献血推進方策について、さまざまな角度で検討し、その結果が同検討委員会報告書として提言された。

同検討会では、全国の16～29歳の若者を対象に、06年と09年に献血に関する意識調査を行い、献血への関心を聞いている。その結果、関心ありと回答

東京昭島ライオンズクラブによる献血推進活動

したのは、06年には52・2％で、かろうじて半数を上回ったが、09年の調査では45・8％に減少し、無関心派の方が多くなってしまった。

このまま献血に無関心な若者が増えれば、どうなるか。答えは明らかだ。

小中学校からの献血教育で関心を高める

若者の献血離れを、菅原さんは「学校での集団献血が減り、経験していない人が増えたことにも原因がある」と考えている。意識調査でも、献血をしている人の多くは20歳までに経験があり、高校時代に経験がある人は回数が多くなる傾向が見られた。

菅原さんの言う通り、集団献血がなくなったことが献血離れの原因の一つとなっているとすれば、逆に高校生の時に経験させることで、若い世代の関心を高めることが出来るのではないだろうか。献血推進のあり方に関する検討会でも、高校生の意識を高めるための方策が議論されている。

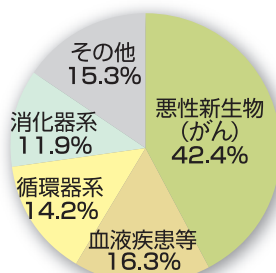
高等学校の学習指導要領解説には、保健体育の時間で献血制度について適宜触れるようにすることが盛り込まれ、2013年〜14年頃には、教科書でも、献血制度に触れられる予定である。

日赤でも、同検討会での討議を踏まえ、学校での「献血出前講座」などの体験学習を既に一部で実施している。

「献血が出来ない小中学生の頃から、血液の大切さや献血制度について啓発教育をしていくことが、高校での献血につながると考えています。ライオンズクラブでは学校と連携して薬物乱用防止教育に取り組まれているようですが、献血は命や健康を守るという点で、通じるところがあると思います。薬物乱用防止教育と連携しながら、献血の啓発を推進していくことが出来れば効果的ではないでしょうか」（菅原さん）

自分も助けられる、という気持ち

若い世代への啓発活動で献血者を増やしたとしても、避けられない問題もある。少子化がこのまま進めば若い世代の絶対的な人口は減る。一人ひとりの献血回数を増やしていく取り組みも必要だ。

献血推進のあり方に関する検討会では、400ミリリットル全血献血が出来る下限年齢の引き下げと、需要の多い血小板製剤を確保するため、血小板成分献血が出来る上限年齢を引き上げることで、幅広い年齢層から血液を確保することが検討されている。現在、平均的な献血回数は年に1・7回だが、

日本赤十字社では、これを2回以上に増やすことで、今後増加することが予想される輸血用血液製剤の需要に対応していきたいという。

例えば、08年4月から複数回献血クラブ会員に対して、糖尿病予防に役立つグリコアルブミン検査を加え、採血時の検査データを携帯電話で見て健康管理に役立てられるサービスの提供を始めた。これによって会員登録者数を増やし定期的な献血を促そうという取り組みだ。加えて採血後のケアが重要と菅原さんは言う。

「採血後の休憩中に、献血した血液がどれだけ役に立っているのか、パンフレットなどで情報提供を行っています。献血が社会の役に立っていると分かれば、回数も増えると期待しています」

調査でも、献血をした後、パンフレットを見て社会の役に立っていることを知り、献血回数を増やすことに前向きになった人が8割を超えている（献血推進のあり方に関する検討会の資料より）。では実際に、献血はどんなところで役に立っているのだろうか。

疾病別輸血状況を見ると、輸血の約半数が、がんの手術である。今や日本人の10人に6人が、がんで亡くなっている。将来、自分も献血によって命を助けられるかもしれない、という意識を持ってもらえれば、自然に献血への関心が高まるのではないか。

日頃から献血推進のボランティアにかかわっている方は驚くかもしれないが、献血や血液製剤のことを十分に理解している人は少ない。

血液製剤の中でも、白血病やがんなどの疾患で使われる血小板製剤の需要は特に高いため、特定の成分だけを取り出す成分献血を推進している。しかし献血者の中にも、なぜ成分献血を勧めているのか理解している人は少ないようだ（献血推進のあり方に関する検討会資料では献血の種類について認知している人は4割にとどまっている）。

成分献血は血小板や血漿といった特定の成分を多く確保することが出来るメリットがある。採血時間は長くなるものの、回復に時間がかかる赤血球を体内に戻すため、献血者の身体への負担は少ない。献血者にも、患者にとってもメリットがある献血方法なのだ。

こうしたきめ細かな情報提供をすることでも、献血への関心を高めることが出来るのではないだろうか。

■疾病別輸血状況

悪性新生物（がん）42.4%
血液疾患等 16.3%
循環器系 14.2%
消化器系 11.9%
その他 15.3%

（2007年東京都健康局調べ）

企業とパートナーとなって献血を推進

献血をサポートする側にも変化がある。献血推進に長い実績を持つライオンズだが、近年は個人情報保護の観点から献血の受付業務にかかわれなくなり、以前ほどやりがいを感じなくなったという声を聞くことがある。しかし献血した人への情報提供、小中高校生の献血啓発活動など、献血推進ボランティアが必要となる場面は増えている。

最近では社会貢献活動に積極的な企業も増えているが、その一環として社員の集団献血を行う例もある。ライオンズの活動としては、企業への働き掛けも有効だろう。日赤では安定した血液確保のため、献血サポーター制度を設けている。集団献血に協力した企業には献血サポーターのロゴマークを発行し、企業のパンフレットなどに掲載して、社会貢献活動をアピールしてもらうという取り組みだ。

企業を巻き込んだこうした活動に、既に実績を挙げているクラブもある。本誌09年9月号「獅子吼」欄で紹介しているが、東京馬場先門ライオンズクラブは、丸の内国際ビルやカシオ計算機㈱などで、企業へ献血協力の呼び掛けを行っている。丸の内国際ビルでは㈱ぐるなび、㈱NKB、㈱日本ペア囲碁協会、㈱ニスク、金魚園などの企業に呼び掛け、社員に献血をお願いした。

カシオ計算機㈱本社では、同社の会議室に採血ベッドを設置して、総務部を巻き込んで、社員に献血の協力を訴えた。同社はパラリンピックや障害者支援を含め、献血だけでなく、いろいろな分野で社会貢献活動に取り組んでいる。が、こうした積極的な企業もあるものの、残念ながら献血サポーターに登録している企業は、まだまだ少ない。ライオンズとして、積極的に企業に働きかけていくことも出来るのではないだろうか。

日赤では献血について理解を深めるため、全国のライオンズを対象にこれまで2回、北海道千歳市にある血漿分画センターを見学するなど献血推進会議を開催している。今年の開催予定は決まっていないが、「今後もライオンズクラブの方々に向けて、献血推進ボランティアに役立つイベントを継続していきたい」と菅原さん。

ライオンズの献血推進活動に、今後も大きな期待が寄せられている。

ライオンズニュースカセット

NEWS CASSETTE

マグニチュード7.0の大地震で、がれきの山となったポルトープランス市内の建物

世界のライオンズが手を差し伸べるハイチ大地震緊急支援

1月12日（現地時間）に発生したハイチ大地震の救援活動に世界のライオンズの支援を求め、エバハルト・ヴィルフス国際会長は緊急メッセージを発信。その中で次のように述べている。

「ライオンズが他の奉仕団体と違っていることが一つあるとすれば、それは私たちが長期的に救済に携わり、被災地のライオンズを通じてより良い明日を築くために努力するという点です。ハイチのライオンズは私たちの兄弟姉妹、この国際的な家族の一員なのです。私たちは彼らを絶対に失望させたりしません」

地震発生から10日目の1月22日、ＬＣＩＦによる緊急支援を指揮するため、アル・ブランデル理事長夫妻がドミニカ共和国の会員40人の救援チームを率いて被災地に入った。水や食糧、医療品が首都ポルトープランスに搬送され、それら救援物資はハイチのライオンズやレオたちの手で病院や孤児院に配布された。また、スウェーデンのライオンズが提供したテント２００張を使い、家を失った被災者や救援活動に携わる作業スタッフ、医療関係者のシェルターとなるテント村が設営された。ブランデル理事長は地元ライオンズらと協議して救援活動を監督する委員会を設置。更に長期的な復興計画についても話し合いが持たれた。

また地震発生時、孤児院に浄水システムを設置する支援活動のためハイチに滞在中だったカナダ・オンタリオ州（Ａ・９地区）のライオンズは、急きょ仮診療所を作って６００人の被災者を治療した。

ＬＣＩＦは地震発生直後から「ハイチに希望を(Lions Hope for Haiti)」と題して献金を呼び掛けている。ＬＣＩＦの発表によると、２月８日までに世界中のライオンズから、２００万ドルを超える献金が寄せられた。国際協会は公式ウェブサイト(www.lionsclubs.org) の最新ニュースやＬＣＩＦのページで、ライオンズによる現地での活動報告など、ハイチ救援に関する最新情報を発信している。

救援活動に力を尽くす被災地のライオンズ

ハイチには２００９年12月末現在、首都ポルトープランスに二つ、その北西１２０キロにあるゴナイヴに一つの合計３クラブがあり、会員は計80人。今回の大地震でポルトープランス市内の会員２人が亡くなり、多くの会員が家族や家を失った。協会公式ウエブサイト「ＬＣＩＦ」の中に設けられたハイチ救援サイトに、ゾーン・チェアパーソンのウィリアム・エリアシンが、国際本部に送った報告が掲載されている。それによると、１月19日にポルトープランスの２クラブが合同で理事会を開き、被災者への緊急及び長期的支援が検討された。エリアシンは22日の報告で、次のように記している。

「ポルトープランスではライオンズとレオが海外からの救援チームと協力し活動しています。この困難な時期に、私たちは勇気と決断力を持ってこれまで以上に奉仕に努めていきます」

国際会長のウェビナーでウェブ上でのコミュニケーション

１月８日の日本時間午後10時30分（オークブルック時間午前７時30分）から、日本の地区ガバナー・チームを対象に、エバハルト・ヴィルフス国際会長のウェビナーが開催された。ウェビナー（Webinar）とはウェブとセミナーを組み合わせた造語で、インターネット上で行われるウェブセミナーのこと。双方向での対話も可能で、国際協会ではヴィルフス国際会長の提案によりウェビナーの活用が検討され、今回初めての実施となった。

ヴィルフス会長はオークブルック時間１月７日午前にインド、同日午後に北米、更に８日の日本と、３回にわたりウェビナーを実施。会長は日本の会員動静についての分析を示しながら概観を解説。特に単位クラブにおける平均会員数の減少に着目し、長期的な会員維持を図ること、また新クラブを誕生させ成長することの二つの戦略を強調した。更に、今回は双方向性を生かし、11月末現在で会員純増に成果を上げている上位５地区（330-A、332-B、333-B、334-A、337-A）のガバナーから、それぞれの取り組みについて報告がありアイデアを共有。最後にＧＭＴ会則地域リーダーの後藤隆一元国際理事から、日本の方向性について話があり、約２時間に及ぶウェビナーが終了した。

挑むべき課題は
・全地域での会員増強法を考える。
・新クラブ結成の機運を維持する。
・今の45,000クラブの会員を忘れないで ― 会員維持
二重戦略で前進しよう
日本ガバナーチームウェビナー　2010年1月

LIONS ON LOCATION 世界で奉仕するライオンズ（『ライオン』誌本部版より）

ウクライナ

新興国における ライオンズの取り組み

ウクライナのキエフにあるウクライナ医学アカデミー脳神経外科研究所の小児科では、重病を抱える子どもたちの病室と浴室の衛生状態があまりにも悪かった。また、適切な医療機器や用品、患者と家族に対する基本サービスの不足も問題だった。病院の財政が困窮を極めていたことから、手術を受ける子どもの両親は、血液を含むほとんどあらゆる手術用品を自分で診療所や薬局に買いに行かなければならない。夜間の付き添いは患者と同じベッドで休み、食料も親が持ち込む必要があった。「正直なところ、設備は紛争地域の野戦病院の方がましなくらいでした」と、キエフ ライオンズクラブのライオンマーティン・ナンは語る。

英国放送協会（BBC）は昨年夏にこの病院の実態を取材。その報道は人々の心を動かし、キエフ ライオンズクラブには支援を申し出る多くの反響が寄せられた。会員70人の同クラブはこの地域で最大のクラブの一つ。会員の7割はイギリスやメキシコ、アメリカなど海外出身者が占め、多くは企業幹部として活躍している。高度な現代医療に慣れた彼らは、病院の悲惨な状態に特に心を痛め、以前から機器を贈ったり、清掃や改修を行ってきた。その最大の成果は、病院に超音波切開・吸引装置を提供し、難しい手術の実施と術後の合併症の軽減を可能にしたことである。この装置を利用して、最初の9カ月間に100人余りの子どもたちが脳手術を受けた。

2002年にクラブが結成されてから、会員たちはビジネスの専門知識と人脈を生かして大規模な社会事業に取り組んいる。ソ連崩壊後、この国では医療その他のサービスを提供する体制が整わず、資金も不足していた。富裕層はしばしば病人、貧しい人々、高齢者を支援していたが、税金控除が認められる寄付金の最低額は法律で25万ドルと定められていた。寄付が広く行われるようになると、詐欺も横行するようになった。「慈善事業は今日、国民や税務署から強い疑いの目で見られています」とライオンナンは言う。ライオンズはこのような誤解を払拭することに成功した。今では、企業も市民もこのクラブを通せば合法的、安全、効果的に社会状況を改善出来ると考えている。ある企業は、クラブを通して慈善事業に4万ドルを寄付した。

クラブは舞踏会の開催などによる資金獲得にも力を入れ、最も多かった年には50万ドルを獲得した。その資金は、クラブが他の医療関連問題や孤児・病人・高齢者養護施設の支援に取り組み、障害者にレクリエーションを提供し、必要な人々のために新しい眼鏡を購入するために役立っている。

「ライオンズ・イン・サイト」で
334-C地区が広報番組を放映

ライオンズクラブを積極的にPRする「ライオンズ・イン・サイト」の活動として、334-C地区（静岡／斉藤守ガバナー）は5分間のテレビ広報番組を県内全域に向けて放映した。地域社会にライオンズクラブとその活動を理解してもらうため、地区内84クラブ合同で実施したもの。番組は1月17日（日）昼、TBS系の人気番組「アッコにおまかせ」終了後に放送。ナビゲーター役のタレント山田まりやと斉藤ガバナーの対話形式でライオンズについて説明した他、青少年交換や環境保全、薬物乱用防止などのアクティビティを紹介した。放映した静岡放送によると番組視聴率は6・3%で、地区ではその成果を検証して、今後の活動に役立てることにしている。

「ライオンズ・イン・サイト」は今年初めて実施されたもので、1月11日からの2週間にライオンズを積極的にアピールしようと、ヴィルフス国際会長が各地区、クラブに参加を呼び掛けていた。クラブ単位でのPR活動も各地で行われ、長野県では松本市内5クラブが合同で市民タイムスに広告を掲載してライオンズの奉仕活動を紹介している。

1月承認の視力ファースト、ライオンズクエストの交付金

1月14日に開催された視力ファースト諮問委員会で15件、総額410万3395ドルの視力ファースト交付金が承認された。交付を受けたのは、マリ、ニジェール、ブルンジ、中央アフリカ、ケニヤ、カメルーン、インド、パキスタン、スリランカ、ブラジルの10カ国での事業。ブルンジで眼科センター設立に15万8933ドル、中央アフリカでは大学での眼科看護士訓練プログラムに13万5215ドルが交付される他、カーター・センターと共同で実施するマリとナイジェリアにおけるトラコーマ抑制プログラム、カメルーンでのオンコセルカ症抑制プログラム、インドのライオンズ眼科病院の改良、パキスタンとスリランカにおける白内障の検査、手術など。

ライオンズクエスト諮問委員会は1月15日に開かれ、12件50万6450ドルの四大交付金を承認。交付を受けたのはカナダ、アメリカ、日本、インド、イタリア、ブルガリア、フィリピン、レバノン、モーリシャスの9カ国で、日本は335-A、D地区（兵庫東、西）に6万7千ドル、335-B地区（大阪・和歌山）に2万5千ドル、336-C地区に2万3千ドルが、それぞれプログラム拡張のために交付された。

協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）のLCIFページに最新交付金リストを掲載。

会議録

第6回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（12月22日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：石井征二、後藤忍、三浦利治、加藤弘明、太田道信、大村哲郎、山地章靖、北島建則各議長、杉本忠夫、不老安正両国際理事）

①国際役員の擁立について②前回からの継続案件③ライオンズクエスト委員長連絡会議の開催について（330、335複合地区提案）④シドニー国際大会地区ガバナー・エレクト・セミナー・ツアーの見積りについて⑤各委員会報告⑥その他

第6回ライオン誌日本語版委員会（1月8日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：杉本忠夫、不老安正両国際理事、秋山詔樹、瀧澤嘉門、林静誠、砂田繁雄、大島康男、小田邦雄、塩倉安伸各委員、荘英隆、小柴登司、辰巳博昭各ITアドバイザー）

①1月号（10万9100部発行）出来②2月号記事内容の確認③3月号以降台割（案）と主要記事予定④ライオン誌日本語版事務所の運営⑤オンライン報告システム⑥その他

第4回複合地区国際大会委員長連絡会議（1月19日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：桜井孝一、古谷野環、佐々木貞夫、眞尾博、滝澤巌、岡田宏、三谷智省、榎本巳之助各委員長、不老安正国際理事、山浦晟暉2010～12年国際理事候補者）

①第93回シドニー国際大会②複合地区公認業者との協議③第49回東洋・東南アジア・フォーラム（台湾・高雄）

訃報

■元国際役員

ライオン岡田信次郎（兵庫県・姫路大手前）

1月13日死去、82歳。93年度335‐D地区ガバナー。

■献眼者

11月＝ライオン市川輝芳（長野県・中野）

国際大会開催予定

2010年：オーストラリア・シドニー／6月28日～7月2日

11年：アメリカ・ワシントン州シアトル／7月4日～8日

12年：韓国・釜山／6月22日～26日

13年：ドイツ・ハンブルグ／7月5日～9日

14年：カナダ・トロント／7月4日～8日

国際本部・太平洋アジア課発――

オークブルック通信⑤

日本から寄せられる問い合わせ

日本を含む太平洋アジア課が管轄する地域には、複合地区と地区が常設の事務局を設置している国が多い。また日本では、日本ライオンズ連絡事務所やライオン誌日本語版事務所、更に本部の出先機関であるライオンズクラブ国際協会日本事務所があり、国内のクラブ、会員からの問い合わせ対応などにも当たっている。そのため、個々のクラブや会員から太平洋アジア課へあてた問い合わせは、1日平均10件以下と少ない。同課では主に地区キャビネット事務局と連絡を取り合うことが多い。

クラブや会員から寄せられる質問は、国際本部のみが対応可能な内容か、国内事務局では調べられない、あるいは情報がないという内容がほとんど。最も多いのは、クラブ会計計算書の内容に関するもので、同課が問い合わせを受けて確認、訂正の作業に当たる。次がWMMRに関する質問や要望だが、これに関しては3月から現在国内で利用されているServannA（サバンナ）と連動したeMMRに移行することで、クラブの利便性は高まる見込みだ。

その他、例会次第の由来や、各ライオンズソングの背景、紋章デザインの由来など、ライオンズの歴史や伝統に関する問い合わせは日本独特で、他国からはほとんどないとのこと。そうした問い合わせがあると、PR部や長く勤務している職員のところへ出向いて調べてみるが、回答出来ないことがしばしばある。

同課への問い合わせや連絡の際の注意点として、必ずクラブ番号と回答の送付先を明記すること。また、本部のデータベースはローマ字表記でしか記録されていないので、フリガナあるいはローマ字表記を添えると分かりやすい。

334～337複合地区(西日本)担当
GMTリーダー
高田　順一

2008年度から3年間にわたり継続的に会員増強に取り組む「グローバル会員増強チーム(GMT)」。複合地区、地区とのチームワークで、会員増強の目標達成をサポートするGMTリーダー2人に、交替でチームの動向や担当エリアの会員増強の成功事例などを伝えてもらう。

1月15日、16日の2日間、アメリカ・イリノイ州オークブルックにあるマクドナルド・ハンバーガー大学のキャンパスで、GMTミーティングが開催されました。

会議が開会した15日の時点で、今年度期首から７４０の新クラブが結成され、1万２８６４人の会員純増というすばらしい結果を得ていることが、ヴィルフス国際会長から報告されました。GMT委員長でもある会長は、これは多くの会員が努力した結果であり、この勢いで期末においても多大な成果を挙げましょうと呼び掛けました。また、そのためには新クラブ結成と同時に既存クラブの会員維持、拡大に努めなければいかないことを強調し、世界的に単一クラブの規模が小さくなっている傾向の中、特に10人以下のクラブには地区ガバナー・チームの力を集中して支援して頂きたいと要請されました。

この会議に先だって、ヴィルフス会長はアメリカ、インド、日本の3カ国の地区ガバナーとインターネットを利用したウェビナー（ウェブを使用したセミナーの造語）を実施されました。地区ガバナーから会員増強の成功事例や優れたアイデアの報告を受け、国際会長の構想について意見を交換したウェビナーはたいへん有意義であり、今後も活用していきたい考えを紹介されました。

今回のGMT会議の主な目的は、会員増強目標の再設定でした。そのため、事前に各地区ガバナーの皆さんからそれぞれが掲げた目標に対する中間報告を受け、その会員増強目標を集計してこの会議に持ち寄りました。

会議日程の後半は各会則地域に分かれ、目標設定を始めとする地域の優先事項を話し合いました。

東洋・東南アジア（OSEAL）地域はウィンクン・タム国際第2副会長、テーサップ・リー元国際会長、後藤隆一元国際理事の3人の会則地域リーダーとエリア・リーダー7人全員が顔をそろえました。協議の結果、OSEALの会員増強目標は7千人と上方修正することになりました。韓国が３２００人、香港と中国が2千人、台湾が千人、日本とマレーシア、フィリピンがそれぞれ３００人、タイが２００人というのがその内訳です。

他にも多くのことが話し合われました。ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴルの国々で新クラブを結成する計画を今後協議する。10人未満の少人数クラブを支援し、２０１０年末までに会員数15人以上、２０１２年6月末までに20人以上を目指す。２０１０年8月末時点で年度期首と比較して会員増強されたクラブの会長と前会長に、OSEALのGMTアワードを贈呈する。これらがOSEALの協議事項として全体会議に報告されました。また2月末に台湾・高雄でOSEALのGMT会議を行い、これらの事項について再協議することも決定しました。

これらの決定を受け、2月8日には東京で日本のGMT会議を開催します。日本は例年、年度末における会員減少が著しいので、それを防ぐことがGMTにとって大きな使命です。目標達成に向けて35人の地区ガバナーと一緒に最善を尽くします。

LCIF Update

災害発生後に地域社会を再建するLCIF

ニコール・ブラウン、アリシア・ディマール

LCIFファイル

災害が発生すると、現場に真っ先に駆けつけることが多いライオンズは、災害からの復旧に努め、現地のニーズに応えている。ライオンズクラブ国際財団（LCIF）が他の組織と大きく異なる点は、他の団体が災害現場を後にしても、ライオンズはそのまましばらく残り、長期にわたって家、学校、病院、地域センターなどの再建支援に励んでいることである。年間の緊急援助金約200万㌦に加えて、LCIFは大災害援助金として数百万㌦を長期復興のために提供している。2008年5月の四川大地震、9年前のインド・グジャラート地震、ハリケーン・カトリーナでの活動例は、地域の再建、人命救助に対するライオンズの献身的な思いを表している。

ライオンズ村

四川大地震によって、中国中部にある四川省の小さな村が打撃を受け、その結果ナン・チョン・チェンの家族はすべてを失った。チェン一家は、政府がプレハブの仮設住宅を建設するまで、ライオンズが提供したテントで生活をしていた。10月にチェン家はライオンズによって150棟以上の家が建設されたライオンズ村に移った。各家の玄関にはライオンズのロゴがついた飾り板があり、こう記されている。

「手を取り合って、心を一つにして、我が家を建て直した」

10月に行われた落成式には、アル・ブランデルLCIF理事長夫妻、ウィンクン・タム国際第2副会長、そして中国や香港、マカオからおよそ50クラブ、地元の副知事や高官など多数が出席した。

「今日は地域住民や仲間のライオンズにとって、すばらしい日です。実際にこの目で確認すると、ライオンズによってもたらされた変化がよく分かります」

再建プロジェクトの準備委員会を主導し、また現場を4回以上訪れたタム第2副会長は話す。

ライオンズは家の建築にあたり、村と協力しながら作業した。多くのライオンズは、村を訪れて、再建の支援、資材の運搬、建築過程の監督、そして資金が確実に使われているかを確認した。中には、10回以上現場に向かった者もいた。

ライオンズは、緊急援助金を提供するために中国政府及び援助隊と協力した。彼らは村にテントを設置し、仮設校舎を建て、また毛布、食料、医薬品などの必要な物資を提供した。LCIFからの交付金20万㌦で、スウェーデンの101複合地区のライオンズは、慈善団体や被災者のために更に多くのテントを提供した。

世界のライオンズは、惜しみなく献金し、LCIFは300万㌦以上の交付金を提供して、長期にわたる再建支援プロジェクトに充填した。甘粛省には、09年度に間に合

うよう、三つの小学校が建設された。蘇州村では、ライオンズは墓を移転し、道路を建設し、また学校、病院や家を建てるために土地を購入した。

　チェンは感謝の気持ちを込めて、すべてのライオンズに「私は新しい家で、新しい生活を楽しんでいる」ことを知ってほしいと願う。

インドでの再建

　マグニチュード7・7を記録したグジャラート地震は、インドに最悪の被害をもたらした。この破滅的な日となった2001年1月26日、1万3800人以上の人が亡くなり、16万7千人以上が負傷した。更に7633の村で、100万軒以上の家が被害を受けた。

　地震発生から30分以内に地元のライオンズは緊急救援隊を編成し、直ちに負傷している人々の援助に向かった。被災地に近いライオンズクラブは水、食料、衣服、テントを始め必要な物資を提供し、救援活動を支えた。更にライオンズは、仮設病院や保健センターなどに必要な医療設備も提供し、あらゆる種類の診療活動や手術に対応出来るようにした。

　LCIFはこの惨状に素早く対応し、災害発生48時間以内に3件の緊急援助金、各1万ドルを交付した。

「地震発生から数日内にライオンズは被災地に駆けつけ、救済活動に励みました。またライオンズとLCIFは、被害を受けた地域を復旧するために、約10年間の長期にわたる再建支援プロジェクトをやり遂げる約束をし、実行してきました」

　と、インド出身のローイット・メータ元国際会長は語る。

　実際、ライオンズの支援は即座の救援だけではなく、地震によって破壊された村の再建に努めるなど、その活動は広範囲に及ぶ。50万ドルの大災害援助金や用途指定交付金170万ドルを含む合計250万ドルは、長期にわたる再建支援プロジェクトに当てられた。LCIFは更に2004年に大災害援助金30万ドルを交付し、ライオンズ・コロニーを建設。地震ですべてを失ったカッチ、ベト・ドワルカで暮らす家族に、生活の重要な基盤となる住居を750戸以上提供した。

　またラージコートの20の村で、地震で学ぶ場所を失った子どもたちのために、小学校が建てられた。更に50床からなるライオンズ病院がブジに建設された。

LSUライオンズ眼科診療所

　2008年12月、50万ドルのLCIF交付金を得て、ルイジアナ州立大学（LSU）眼科診療所が開設した。診療所は、貧困のため診療を受けられない人や、ルイジアナのライオンズクラブの援助を受けた患者に眼科治療を提供する。LCIFのハリケーン・カトリーナ災害救援プログラムは、公共施設の支援や破壊された地域の復旧に役立つプログラムを提供するもので、これによって診療所の建設が可能となった。

「LCIFのおかげで、ニューオーリンズ付近に住む健康保険に入っていない人を対象に、特に眼科治療を提供出来るようになりました。まさにすばらしい贈り物です」

　と、LSU眼科部のブルース・A・バロン臨床学教授はこう話す。

　眼科診療所は、ハリケーン・カトリーナの被災地を再建するプロジェクトのほんの一例である。LCIFとライオンズは、指定献金や大災害援助金を通して500万ドル以上を交付し、メキシコ湾岸の4州に学校や地域センターを再建した。

◆

　このように、LCIFは災害によって壊滅的被害を受けた地域を再建することに力を注いでいる。LCIFを通してライオンズは、災害発生後に人命救助や、地域を再建する大規模な人道主義的奉仕活動を実施することが出来るのである。

CLUB REPORT
クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿要領は56ページ参照

兵庫県・尼崎琴の浦ライオンズクラブ

鎮魂の祈りとかまくら

思い起こせばあっという間の15年だったような気がする。中学生以下の人たちはまだ生まれてもいなかった。復興成った街並みを見ると、あの大きな被害をもたらした阪神大震災など想像も出来ないだろう。

「あの時は明け方で暗くて寒かった」

「あの出来事を風化させてはならない」

そんな思いで、私たち尼崎琴の浦ライオンズクラブ（芝軒義一会長／27人）は2003年から、温かい明かりのともる「かまくら」制作を実施している。

会場は尼崎市役所東側の橘公園。当県香美町から30トンの雪を搬入、秋田県横手市から市職員とかまくら職人ら5人を招き、高さ3メートルの本格的なかまくらを制作した。また、近くの小学校や保育所などの児童がバケツを使って、市内で亡くなった49人分のミニかまくらを作った。横手市では今回の事業に大きな理解を示され、このミニかまくら用にと100本のろうそくを寄贈、また「寒いだろうから」と甘酒を持参して市民に振る舞ってくださった。

地震発生12時間前の1月16日午後5時46分。小学5年生2人を先頭に、あの地震を知らない子どもたちが49基のミニかまくらに、神戸から分灯してきた「希望の灯り」をともした。点灯の前には芝軒会長が大震災についての話をしたし、それまでにも大震災のことを聞いているに違いない。皆神妙な面持ちだった。白井文尼崎市長も駆けつけてくれた。参加した大勢の市民もそれぞれの思いを込めて明かりを見守っているようであった。

そして翌17日午前5時46分、再びメンバーが集合してかまくらに点灯。市民の方々と共に1分間の黙祷を捧げた。

阪神大震災から15年目の今年はクラブ結成40周年でもあり、記念事業として取り組んだ。節目の年に行っている大きなかまくら作りなど、クラブ・メンバーがまさに一丸となって事業を成功へと導くことが出来た。被害に遭われた方々への鎮魂の祈りと共に、大震災があったという事実を風化させてはならないという思いを新たにした。

（幹事／松川清彦）

岐阜県・本巣ライオンズクラブ

クラブと地域の心をつなぐ駅伝大会

1月17日。快晴の中、行われた第47回大野橋駅伝競走大会で、本巣ライオンズクラブ（浅川英高会長／45人）は、豚汁の炊き出しと薬物乱用防止リーフレットの配布を行った。

本巣ライオンズクラブがこのアクティビティを始めたのは7年前のこと。当初はメンバー同士で駅伝チームを作り、青少年の健全育成の一環としてゼッケンに薬物乱用防止のメッセージを書き、走っていた。5年前からは地域住民との交流をより深めるために豚汁の炊き出しを始め、以来、選手、観戦者にとって毎年楽しみなイベントとなっている。

炊き出しの会場はゴール脇に設置し、早朝からメンバーが総出で豚汁づくりに取りかかる。白熱の駅伝大会が終わりに近づく頃、豚汁も完成。鍋からいいにおいが立ち上った。それまで黙々とした作業で静まり返っていた会場は、走り終えた選手や観戦者たちが一気に押し寄せ、大混雑となった。とはいえライオンたちは慣れたもの。手際よく盛り付け、配膳を行い、ざっと500人分はあると思われる二つの大鍋は1時間も経たないうちに空になった。

豚汁の味付けはというと、中京圏ならではの赤味噌仕立て。仕込みを担当したライオンの中には料理屋の女将もいるから、味は折り紙つきだ。豚汁を食べた中学生の女子選手は「おいしいし、毎年楽しみにしています」と笑顔で話してくれた。

また会場の前では、今年度エバハルト・ヴィルフス国際会長が提唱している協会のPRプロジェクト「ライオンズ・イン・サイト」の一環として、ライオンズのロゴ入り風船を配布。企画時点では「もらってくれるか不安だった」というが、これが予想外の大人気。用意していた風船が瞬く間になくなり、慌てて追加で膨らませたほど。豚汁同様の好評ぶりに、「ライオンズを地域の人たちに知ってもらう良いきっかけになった」と手応えを感じていた。

地域住民と本巣ライオンズクラブ。その距離を更に一歩縮めることが出来た一日となった。

（取材／安藤英則）

千葉県・銚子ライオンズクラブ

ライオンズクエスト活動中

銚子ライオンズクラブ（篠塚和男会長／46人）がライオンズクエスト事業に取り組み始め、また私が地区ライオンズクエスト委員会に配属されて今期で3年目になる。2007年7月に333-C地区は「ライオンズクエスト拡大事業」として、333-B地区との合同による3カ年計画を発表した。当初はライオンズクエストの何たるかもよく分からないメンバーが大半だったが、研修会やワークショップを重ね次第に理解を深めてきた。また共に学んだ教育関係者や他クラブのライオンズ・メンバーとの出会いも大きな財産となっている。

さて3カ年計画も最終年の今年度に入り、銚子市立第1中学校でのプログラム導入が具体的な形を取り始めた。7月にライオンズクエスト・セミナーを、そして8月に校内型ワークショップを開催。参加者からはすばらしい評価、手応えを得た。ある先生がもらした「私たちのやってきたことは間違っていなかったのね」という言葉に私は、「先生方も不安があって毎日生徒や父兄の方々と接しているんだ」と思うと共に、プログラムがきっと現場で生かされるという確信がわきうれしかった。

以降、ライオンズクエスト導入にこぎつけた同校では、11月6日にモデル校として初めての公開授業が行われた。2年生のクラスでの「誘いを断る」の単元だ。更に同月16日には銚子市教育委員会学校訪問授業として、3学年の12クラスで「適切な意思決定」の単元が実施された。先生方と生徒たちが一生懸命に授業を行う姿を参観し、私たちメンバーは感動するばかりだった。引き続き今年も我々は授業を参観したり、並行して行っている薬物乱用防止講座で派遣講師として招かれており、生徒たちとの交流も深めている。

また2月にはクラブ主催の事業として、ライオンズクエスト講座（薬物乱用セミナー）を千葉科学大学で開催する。同大学の教職員と学生、市内の中学8校と小学校13校のご父兄及び先生方、そしてライオンズを合わせて260人が参加する予定だ。

今後も「ウィ・サーブ」の精神を掲げメンバーの友愛を一つにして、ライオンズクエストを更に推進していくつもりである。（地区ライオンズクエスト委員会副委員長／島田政典）

愛知県・豊橋ちぎりライオンズクラブ

「みどりのダム」再生プロジェクト

11月15日、豊橋ちぎりライオンズクラブ(石川文彦会長／50人)主催、あいち炭焼の会、三河炭やき塾、段戸ふるさと会協賛による植樹を、愛知県設楽町田峰の段戸山の麓で実施した。会員や家族ら230人が参加した。

環境をテーマに活動を続ける私たちは、平成15年のクラブ結成20周年記念事業で「はぐくもう水とみどり」をスローガンに、同地で「みどりのダム」を造るという計画をスタートした。植樹は今回で7回目となる。

植樹会場となる設楽町田峰西川地区一帯はブナ立山という地名が残っているように、かつてはブナの森であった。昭和の初め、国の植栽計画でブナは伐採され、杉と松の森に変わってしまった。それを境に豊かに流れる豊川の水量も減少し、豊川用水も水不足が問題とされるようになったのである。

「水を使うものが、水をつくる!」

私たち水を使う者が源流域であるこの地にブナ、ナラ等落葉樹を植え、杉、ヒノキとの混交林を構成させるのは、水の大切さを実感する体験活動であり、この地の植生を生かした往時の水源の森を復活させたいとの願いである。

これは、水を利用する下流域の住民が当然考えなければならないテーマでもある。そして、考えるだけでなく行動すること、たとえ小さな一歩でも、私たちが植林という実践活動をすることに大きな意義がある。

今回は杉とヒノキの間伐材で作った炭を使い、「植穴置炭法」と呼ばれる方法で土と炭を混ぜ、コナラ250本の苗木を植えた。コナラの林となることを願っている。

炭は根張りを良くする働きがある。苗木はすくすく成長し、命の水を育んでくれるはずだ。(幹事／野川澄二)

富山県・大山ライオンズクラブ

青少年防災体験セミナー

大山ライオンズクラブ（15人）は、富山市立上滝中学校の2年生全103人を招き、特別教科事業として「青少年防災体験セミナー」を開催した。

セミナーでは次の三つのコーナーを設け、消防署員のきめ細かく熱心な指導で、生徒たちはすべてのコーナーを体験した。

A　人命救急：心肺蘇生法、AEDの実施講習

B　初期消火体験：消火器操法、屋内消火栓操法、消防車放水

C　災害模擬体験：地震の震度7の揺れ、煙の怖さと避難、119番の通報など

翌日、体験セミナーの成果について中学校と市が、当日の内容と生徒たちの声をホームページで次のように紹介した。

「心肺蘇生法やAEDの使い方では人の命を救うことの難しさ、命の大切さを実感した」「火事は初期消火が肝心。『火事だ！』と大声で叫んでから消火に当たること」「起震車ではあまりの揺れの大きさに驚きの声が上がった」「煙中体験では煙に巻き込まれると呼吸が出来ず、前が見えなくなって煙の恐さを実感した。姿勢を低くして避難することを教わった」「119番通報では、事故なのか火災なのか、現場の住所や近くの目標物、状況などを落ち着いて要領よく話す訓練をした」

セミナーの途中では実際に消防署員が緊急出動する一幕もあり、生徒たちは緊迫した雰囲気も体験した。

生徒代表は謝辞で、「命の大切さを実感しました。万が一の時は今日学んだことをしっかり生かしたい」と述べてくれた。「いつか役立つ時があるかも」と題したこのセミナー。こうした災害等に頻繁に出くわすことはないだろうが、だからこそ今回の経験により、いざという時に落ち着いて対処することが出来、人命救助につながることと思っている。

（会長／岡本武勇）

兵庫県・三田、三田中央ライオンズクラブ

九鬼藩主の墓地周辺清掃

港神戸の北側、六甲山を越えた広大な盆地に三田市はある。関ケ原の合戦後、徳川時代に鳥羽から移ってきた九鬼家により治められた城下町だ。近年はフラワータウン、ウッディタウンなどニュータウンが次々造成、建設されて平成の初め頃から人口が増え続け、10年にわたり人口増加率日本一を誇った。

三田（矢本義隆会長／26人）、三田中央（本智之会長／13人）の両クラブは、毎年のライオンズ・デーに国道沿いや、市の中心を流れる武庫川堤での清掃等を続けてきた。今年度は郷土の歴史を振り返り、三田の新市民にもアピールしようと、九鬼家に縁の深い場所を選んだ。同家の菩提寺である心月院周辺、代々の殿様の墓地、九鬼家に仕えた旧藩士や、明治、大正、昭和と時代を担って活躍した実業家の墓地周辺の清掃を両クラブ合同で行った。そこには最近、NHKテレビドラマとして放映されて人気を博した白洲次郎氏と正子夫人の墓もあり、各地から墓参に訪れる人が増えている。

10月25日のライオンズ・デーは、メンバーが早朝からほうきや熊手、鎌などを持って心月院に集合。手分けしてお墓周辺の落ち葉を集めたり、草取りをして、参拝者に気持ち良くお参りして頂けるように環境を整えた。

終了後、我々は奇麗になった墓地周辺を見ながら、代々三田を収めてきた九鬼家に、白洲家に、また時代を担ってきた実業家の実績に思いを馳せ、一層郷土愛に徹し「ウィ・サーブ」の精神を忘れることなく活動していくことを誓った。（PR委員、元335-A地区ガバナー／澤徳一）

三重県・津ライオンズクラブ

桜植樹と「桜守」募集

一身田中学生によるブラスバンド演奏が鳴り響くと、曇天の中勢グリーンパークに薄日が差し込んだ。11月29日、桜植樹祭の日。来賓代表の松田直久津市長と津ライオンズクラブ（80人）の中村豊久第50代会長によるシダレ桜の植樹の他、一般公募した「桜守」ファミリーへの委嘱状授与、桜守とクラブ・メンバーとの共同によるソメイヨシノ106本の植樹が行われた。あっという間の1時間半。帰る頃には笑顔、笑顔の桜守ファミリー。そして、やったーという顔のメンバーたち。「来年4月4日の観桜会が待ち遠しいなー」。

「桜守」募集の話は2年半ほど前にさかのぼる。クラブ結成50周年事業の決定に向け、48年目はまず過去の周年事業のお勉強。49年目はメンバー全員へのアンケートと50周年準備特別委員会の設置と企画の骨子作り。そして今年度7月には全員参加の実行委員会の設置へと進んだ。

準備特別委員会でのひとこま。「桜の木を子どもたちと一緒に植えたらどうだろう。俺たちメンバーはあと50年も生きられないけど、子どもはこれから。彼らと共に桜も大きくなる」という一言から、桜守の公募が決定した。

イラスト／篠田和夫

募集のチラシには、市民が憩う桜の新名所となるように130本の桜を植樹すること、そのうち100本に番号を付け家族の桜として見守ってもらいたいことを記載した。NHKや中日新聞などマスコミが取り上げてくれて大きな反響があり、抽選で小学生以下の子どもを持つ106組のファミリーを選出した。

最後に、本当の桜守のお仕事は木の養生等、大変なことと認識しているが、当クラブの「桜守」は桜を見守り楽しんで頂くこと。寛容なお許しを。

（50周年副実行委員長／稲畑芳美）

岐阜長良川ライオンズクラブ

聴覚障害者福祉協会へファクス複合機寄贈

岐阜長良川ライオンズクラブ（小森弘会長／47人）は10月21日、岐阜市聴覚障害者福祉協会に一斉送信が出来るファクス複合機を寄贈した。クラブ例会に田中誠一同協会会長と手話通訳者をお招きし、複合機等の目録の贈呈式を行った。協会からは感謝状を頂いた。

当クラブは25年間にわたり「聴覚障害者ふれあいボウリング大会」を開催、聴覚障害のある方たちと通訳、そして会員らがゲームを通じて交流し親交を深めてきた。が、年月を経て参加者全体の高齢化が進み、見直しが必要になっていた。そこで今年は同協会事務局が県から独立して設立されたのを機に、ボウリングの代わりに実用品を希望され、複合機寄贈となったのである。

それまでは57人いる協会会員への連絡には、会長が自宅のファクスを使って一件ずつ送信していたそうだ。そして贈呈から日を置かずに、台風の暴風警報連絡に活用することになったのである。こうした警報などはスピーカーで地域放送がされても、聴覚障害がある人は聞くことが出来ない。デジタル放送を受診出来るテレビでは警報が確認出来るのだが、まだ対応していない人も多い。そのため一斉送信が出来る複合機は大変喜んで頂けたのである。

これからも同協会とは交流を持ちつつ、必要とされる支援を続けていきたいと思っている。

（四献委員長／河﨑良史）

京都むらさきライオンズクラブ

教養講座：礼儀・マナー教室開催

私たちの京都むらさきライオンズクラブ（闞和香子会長／45人）は女性会員のみで構成されたクラブです。10月17日、社会見学例会の枠で礼儀・マナー教室を開催し、会員22人が参加しました。講師は京都光華小学校・中学校・高等学校で小笠原流礼法講師をしているライオン萩本房子が務め、会場はライオン戸津川登和子が自宅の隨林寺を提供してくれました。

講座前半は上座、下座の確認から。場面設定は和室及び洋室、またタクシーや自家用車、列車内です。続いて、美しい立ち居振る舞いの基本となる姿勢のチェック、相手に真心が伝わる正しい姿勢で行うお辞儀、いすの作法、室内出入りの作法、玄関での作法、物の扱いと受け渡し方など。参加した会員は皆、熱心に、また楽しく取り組みました。

後半は、蓋付湯呑茶碗の使い方を稽古した後、実際に緑茶と和菓子を頂き、大いに盛り上がり、最後に活発な質疑応答で講座は幕を閉じました。

800年以上の歴史を持つ小笠原流礼法の基本は、「日常の行動として役に立ち無駄がなく他から見て美しくある」ということ、そして「時・所・相手に合わせて、当たり前のことが当たり前に出来る」ということ。これを知って体験し、大変充実した時間を共有することが出来ました。また、この講座を通じて会員相互の交流と親睦を深められたことが、何よりの収穫であったと実感しています。

（広報委員長／内海洋子）

千葉県・東庄ライオンズクラブ

障害者招待クリスマス例会

12月10日、東庄ライオンズクラブ（大網正敏会長／22人）の第1002回例会は地域共生のアクティビティとして、当地の障害者施設、北総育成苑の園生77人を招待し、クリスマス例会を開催した。今年で22回を迎えたこの企画を、園生たちも最大の楽しみの一つにしてくれている。

園では毎年、夏の「夕べの集い」、秋の「さざんか祭り」があり、メンバーが招待を受ける。そこで年末には我々がクリスマスに招待し、交流を図っている。

歓迎の言葉や園長先生、園生代表、保護者代表のあいさつの後は、お楽しみのメンバー・サンタクロースが登場、プレゼントを配った。毎年のことながら、袋の中をのぞき、また隣をのぞいて見比べたり、うれしそうな姿の何とほほえましいことか。

メンバーは「安来節」の踊りを披露。先生方による余興、園生の大好きなカラオケではメンバーとのデュエットも。また、タイガース・ファンの園長の下、園生全員による恒例の『六甲おろし』、トリの曲はこれまた例年通り、全員で『北国の春』の大合唱となった。

最後は、今年も園生が心を込めて作ったシクラメンの鉢植えがメンバー全員に手渡された。時節柄うれしい、心づくしの贈り物である。

園生も例にもれず高齢化が進む。風邪引くなよ、元気でな、来年もまた楽しみにな、と声を掛け、握手を交わし、メンバー全員で見送りをした。

（2年理事／大須賀光幸）

北海道・札幌ライラック ライオンズクラブ

薬物乱用防止教室開催

札幌ライラックライオンズクラブ（末神裕昭会長／55人）の開催する薬物乱用防止教室は2回目。本年度執行部での開催は初めてであったが、末神会長はやる気満々。会長の母校である札幌市立北栄中学校において全校生徒517人と先生41人、更にPTAも交え約600人の教室開催となった。

準備においてはクラブ三役と担当委員会が協議を行った。学校側からは、1時限（50分）のうちに全校生徒を対象に1回で行ってほしいという要望があった。しかし教室開催の目的は「薬物の恐ろしさと、1回でも使用してはいけないことを教えること」。全員一度にでは体育館へ移動するだけで時間を費やし、伝えるべきことが伝わらないかもしれない。

これらの点について理解を求めた結果、1年生は5時限目に視聴覚室で、2、3年生とPTAは6時限目に体育館で受講することになった。また、薬物乱用防止キャラバンカーを当日の昼休み時間から午後4時30分まで玄関に配置し見てもらった。当日、生徒たちは真剣にDVDを視聴し、講師の話を聞き、最後はみんなで「ダメ。ゼッタイ。」を声高らかに掲げ終了した。

生徒のアンケートには、「ライオンズのおじさん教えてくれてありがとう」の言葉が多く、彼らの元気な笑顔が我々の心を癒やしてくれるのを感じた。

（幹事／蛭田清樹郎）

福岡県・北九州紫水ライオンズクラブ

結成30周年記念式典と祝賀会

11月23日の勤労感謝の日、ステーションホテル小倉において北九州紫水ライオンズクラブ（泉義隆会長／41人）の結成30周年記念式典・祝賀会が開催された。多忙な中、総勢400人を超す方々がご出席くださり大盛況。北九州市長のL北橋健治を始め、不老安正国際理事、山本正廣337‐A地区ガバナー、熊本県・牛深、韓国・釜山釜慶の両姉妹クラブにもご参加頂いた。

1980年に49人でスタートした我がクラブ。現在チャーター・メンバーは2人となった。その一人L吉田勲は今年度副地区ガバナー。L吉田をガバナーにとはクラブ初代会長を務めた故L脇園茂も強く望んだことであったが、残念ながら今式典1カ月前に力尽き他界された。もう一人のチャーター・メンバーL泉義隆は4年間にわたり337複合地区のIT特別専門委員を務め、更に今年度は山本ガバナーの下、地区指導力委員長も兼務し来期に向かって忙しく立ち回っている。

本年度、クラブのスローガンは「水のごとく」。しなやかに、したたかに、燃える情熱と固き団結をもって、我々は奉仕する。30周年記念事業の一つが「わっしょい100万夏まつりふれあいカヌー大会」支援だ。8月、市の中心を流れる紫川河畔において多くの子どもと観客が見守る中、カヌー贈呈式を行った。また、Jリーグ入りを目指す地元プロサッカーチーム「ニューウェーブ北九州」に対し、子ども観戦チケットの資金をサポート。子どもたちに夢と感動を与えることが出来た。奇しくも式典当日にJ2昇格が本決定。チーム名を「ギラヴァンツ北九州」に改称し、更に大きく羽ばたくこととなった。私たちの喜びは二重のものとなったのである。

（PR編集IT委員長／山路哲男）

広島県・三次ライオンズクラブ

三次義士祭で四十七士しのぶ

三次ライオンズクラブ（宮本茂会長／37人）は12月13日、忠臣蔵で知られる赤穂四十七士をしのぶ三次義士祭りを開催した。会場となった鳳源寺には、1981年に当クラブが寄贈した義士堂があり義士の木像が安置されている。第25回を迎えた今回、観光客約500人が訪れにぎやかな祭りとなった。

三次は、四十七士の一人、萱谷半之丞政利が討ち入り決行直前まで身を潜めていた土地であり、また浅野内匠頭の妻・阿久利の出身地。我々は義士祭りが赤穂浪士の供養と観光の一助となることを願っている。

祭りでは住職による読経及び一般客も参加しての焼香等の法要の他、浅野家の遺跡巡りや宝物の拝観、剣道大会やなぎなたの模範演技など、多彩な演目が繰り広げられた。また、義士が討ち入り前にそばで腹ごしらえをしたとされることから、メンバーが丹精込めて作る討ち入りそばとうどん、おでんを販売。これを食べないと義士祭りに来たことにならないと言われるほどの名物になった。更に裏千家淡交会の協力でお茶席も設けられている。

楽しい企画も盛りだくさんではあるが、単なるイベントとは一線を画す。クラブでは先人から、最も重要な法要をおろそかにせず祭り前日の義士堂内外の清掃と、義士と三次の関係を伝えていくことを忘れてはならじと指導されてきた。開催が近づくと報道機関から多数の取材依頼が舞い込むことからも、祭りの意図が理解され評価されていると自負している。

法要ではメンバーが赤穂浪士に扮して義士行列を行うのだが、今年は初めて阿久利が加わった。これが非常に好評で、法要後はいくつもの記念写真に応じていた。今後の課題は、現状の当クラブ単独主催から、お寺など他組織にも協力を呼び掛けていくこと。また祭りの内容も再検討して、常連化している来客層に若い世代を呼び込み、末永く親しまれる行事にしていけたらと思っている。（PR情報委員／矢野文雄）

東京都・町田クレイン ライオンズクラブ

笑顔が輝いた在宅介護施設訪問

11月27日、町田クレイン ライオンズクラブ（渋谷章次会長／39人）の社会福祉委員会は在宅介護支援センター「ふくいんの家」を訪問した。日当たりの良い静かな一角にある施設だ。長期宿泊利用者もあれば、バスで午前9時から夕方5時までのデイサービス利用の人もいる。

当日はハワイアン・スタイル・バンド「ギンナーズ」が訪問し、日本のナツメロやハワイアンを演奏した。我々メンバー9人もお年寄りたちと少しでも交流出来ればという思いであった。無口になりがちな人々も、笑顔で曲を口ずさみ、心を開いていた。特に『旅愁』『みかんの花咲く丘』『夕焼け小焼け』といった歌では、皆、前に乗り出し、最後の『ふるさと』では涙ぐむ人も何人かいた。

ギンナーズのバンドリーダーは手慣れたもの、一人ひとりを指さしながら、「なかなかうまい！」「歌えるじゃない！」「すばらしい！」と褒める。最後は全員での大合唱である。ハワイアン・ダンサーたちによる裸足のフラもいいものだ。

最後に渋谷会長のあいさつで和やかな雰囲気をうまく締めくくり、我々が収穫した甘藷をプレゼントして喜ばれた。（社会福祉委員長／内田孝）

北海道・札幌ポプラ ライオンズクラブ

長寿高齢者敬老の集いを開催

日本は今や世界に誇る長寿国。第2次世界大戦の時代を逞しく生き抜き、戦後の復興に大きく寄与された、80歳を超える方々も大勢ご存命だ。しかし昨今、高齢者を狙った振り込め詐欺の被害に遭ったり、孤独な独居生活を余儀なくされるケースも少なくない。

札幌ポプラ ライオンズクラブ（70人）は今期会長方針の一つに「高齢者等への支援奉仕」を掲げている。そこで9月13日、過去の労苦に対する謝恩の気持ちを表そうと、ご高齢の男女約80人を招待して、初の試みである「長寿高齢者敬老の集い」を開催した。

集いは昼食をはさんでの茶話会形式。お茶やジュース、幕の内弁当で接待し、アトラクションに地元・白石警察署署員による寸劇「振り込め詐欺被害防止」とテーマソングを披露、また北海道を代表する三味線、尺八、民謡や、アコーディオン演奏など盛りだくさん。演奏に合わせて昔懐かしい歌を口ずさみ、楽しい時間を過ごして頂いた。伊藤信賢331－A地区ガバナー始め地区役員もご臨席くださった。最後はクラブ名入りタオルを記念品として全員にお渡しした。

後日、町内会長や老人クラブ会長を通じて感激の謝辞が寄せられ、我々も感無量であった。　（会長／今野好信）

佐賀県・唐津ライオンズクラブ

青少年育成事業で国際交流

唐津ライオンズクラブ（平田正次会長／28人）主催の児童作文発表会は、今回で22回を数える。市内の小学5、6年生を対象に作文を募集、数百点の応募の中から30人の入賞者を選ぶ。そして書き上げた作文を、会場いっぱいの人前で彼らに発表してもらうのだ。

自分の考えをまとめて文章にして、自分の声で多くの人に伝えて感銘を与えるという、「書く、読む、伝える、感動させる」の内容を採点して、会長賞、優秀賞、最優秀賞を選考する。本年の最優秀賞は、「やさしいな、日本」の題で発表を行った韓国・済州島の西帰浦市出身、来日8カ月目の朴ハヤンさんだった。

「私は、母と、韓国から唐津に来ました。今、母は市役所に勤めています。私の学校は70人ぐらいでまるで家族のようです。初めはドキドキしたけど、『ハヤン、おはよう』『ハヤン、一緒に遊ぼう』と声を掛けてくれ、ずうっと前からの友達のようになりました」

日本語を早く覚えようと努力したことや、明るく活発な行動に「おてんばハヤン」と呼ばれて仲間になったことなど、学校生活の様子をハキハキと流暢な日本語に加えて表情豊かにジェスチャー付きで発表し、皆が感動した。

西九州の唐津は万葉の昔から一衣帯水の韓国とは交流が深い。西帰浦市のほか麗水市とも姉妹都市で、市職員の1カ年間体験交換事業もある。

受賞後、坂井俊之唐津市長（当クラブ会員）が西帰浦市を訪問された際、同市長に朴ハヤンさんの受賞の様子を写した写真とDVDを手渡したところ、地元でも話題になり大いに報道されたそうだ。

児童作文発表会は地元有線テレビ局により、特別企画番組として数回にわたり放映されている。当クラブの青少年育成事業が国際姉妹都市間の交流を更に深めることになった。

（青少年委員会／橋村信義）

愛知県・安城南ライオンズクラブ

国際平和ポスター・コンテスト作品展示会

安城南ライオンズクラブ（白谷康裕会長／97人）が青少年健全育成事業の一環として実施している国際平和ポスター・コンテストに、今年度も多数の作品を応募頂いた。将来を担う11歳～13歳の子どもたちが「平和を生み出す力」をテーマに、「平和が何を意味するか」を考え表現した秀作である。今回は安城市の9小学校を通じ、133点の力作が寄せられた。どの作品も平和を願う、素直で真剣な心が表現され、透明感あふれる考え、構図、色使いの作品ばかり。

本年は広く市民の皆様に子どもたちの作品を鑑賞して頂こうと、12月7～11日、選考作品39点を岡崎信用金庫安城支店にて展示した。この展示会を、子どもたちからの一足早いクリスマス・プレゼントとして鑑賞頂ければと考えた。

国際レベルでは24点の優秀作品が選ばれ、中でも最優秀作品1点の作者は、国連ライオンズ・デー（今年の開催地はオーストリア・ウィーン）の中で開かれる授賞式に招待される。国際平和ポスター・コンテストの趣旨にご理解頂きご協力くださった皆様と、応募してくれたお子さんたちに心からお礼申し上げる。

同事業を含む我がクラブの活動は、ホームページに掲載中!!
http://www.fujii-kakou.co.jp/amlions/top.html

（PR・IT委員会／杉浦弘昌）

大阪府・藤井寺ライオンズクラブ

園児にクリスマス・プレゼント

藤井寺ライオンズクラブ（門谷明会長／30人）は12月24日のクリスマス例会の前に、プレゼントを持って陽気保育園を訪問した。これまでクリスマスには会員家族でディナーショーに行くなどしていたのだが、今年はその分をアクティビティに充てることにした。

当日の朝9時15分、ライオンズ・メンバー16人、志学台レオクラブメンバー14人、藤井寺中学校OG3人が集合。アンパンマンの着ぐるみやサンタクロースなどの衣装と、プレゼント150人分を積み込み、一路保育園へ向かった。園に到着すると、メンバーは全員が思い思いのコスチュームに着替え、園児の集う隣の部屋で出番を待つ。保育士の案内でアンパンマンを先頭に、サンタクロース役を残して全員が園児の拍手に迎えられて登場だ。

最初に宮宇地誠クリスマス特別委員長が、ライオンズ及びレオ・メンバー、そして藤中OGを紹介。その後、子どもたちとゲームをしたり、アンパンマンとドキンちゃんのパフォーマンスなどで園児たちの盛り上がりも絶好調に達した時、宮宇地委員長の音頭で園児全員による「サンタクロース、サンタクロース！」コール。いよいよプレゼントを詰めた袋を背中に背負ったサンタクロースが登場し、園児150人に一つひとつ手渡していった。最後は皆で記念撮影。そしてサンタたちは陽気保育園を後にした。

初めての試みだったが手応えは上々。レオも、また参加したいと言う。今後は老人ホームも対象にしようか、などと発想が広がり、クラブ内が活気づいている。

（ゾーン・チェアパーソン／鷲津勝義）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領→56ページ

玉垣

竹下　卓郎（愛知ウエスト）

司馬遼太郎の歴史小説『坂の上の雲』が、スペシャルドラマとして、3年にわたってNHK大河ドラマの枠で放送される。第1回は昨年11月29日に放送があった。明治維新により近代化する日本を描く大作で、豪華な役者陣と共に楽しみなことである。

司馬遼太郎は、本名を福田定一という。祖父の惣八は、兵庫県姫路市の郊外、広畑という村（現・姫路市広畑区）の出身である。司馬の父は惣八の晩年の子で、父が少年の頃、惣八は亡くなっているから、孫である司馬は祖父を知らなかった。写真なども無く、形見らしいものも一切無かったという。

司馬は、1964（昭和39）年に「昭和の大修理」が完了した姫路城から、記念講演を依頼された。姫路は祖父の出身地でもあり、広畑の西福寺という寺は先祖代々の宗門帳を預けている壇那寺でもあるから快諾した。

このことを父に言うと、父はその村の鎮守の玉垣に、祖父「福田惣八」の名が刻まれているはずだと教えてくれた。

講演後、暗くなった鎮守の森の玉垣を懐中電灯で当てずっぽうに照らすと、偶然「福田惣八」という石柱が浮かび上がった。司馬は、やっと祖父「惣八」に対面出来た思いでいっぱいになったというが、感激のあまりか多くを語っていない。

我が家は長女、次女とも長男の家に嫁いだので、竹下姓は一代限りとなった。元々私は次男であるから、別に姓にはこだわってはいないが、小さな家と父の墓もあるので、いずれ始末をしてもらわなくてはならない。

私の故郷は、静岡県磐田郡水窪（みさくぼ）町という大変な辺地で、今では限界集落と言われているほどの田舎である（今回の市町村合併で浜松市となった）。そこに山住（やまずみ）神社がある。709（和銅2）年に、愛媛県今治市大三島町の大山祇神社から移し祭った神社である。標高1107メートルという高地で、夏でも涼しいところである。

その山住神社の玉垣に、家内の長兄の勧めで、「一宮市　竹下卓郎」という石柱を

イラスト／小川和政

建ててもらった。なかなか立派に刻まれた石柱で、何代も朽ちることなく立ち続けてくれることだろう。

何百年先のことになるか分からないが、姓の変わった私の子孫たちが尋ねあててくれることもあろうか。

爪楊枝
―ベトナムとの交流余話―

藤沢　誠（岩手県・藤沢岩手）

藤沢町は、国際交流の盛んな所である。ライオンズではこれまで、何人ものYE生を受け入れているが、町自体でもオーストラリアやベトナムのホーチミン市と教育交流を行っている。どちらも長年の相互訪問によって、交友が深まっている。

ホーチミン市から人口1万人の藤沢町にやって来るのは若者である。日本語による日常会話が出来る子が選抜されて、毎年5人ほどが訪れ、ホームステイをして町民との触れ合いを深めてきた。

ベトナムは社会主義の国柄である。その国の貿易大学生と農林大学生の男女が、日本にあこがれてやって来て、「日本人はすばらしい。日本の技術力をしっかり学びたい」と強調する。

これまで岩手県の山里の藤沢町にやって来たホーチミン市の若者は、男女合わせて100人を超えた。そこで現地に「『在ベトナム・藤沢会』を設立しよう」という気運が高まり、「藤沢町の皆さん、ぜひ設立の会にホーチミンにいらしてください」という声掛けがあったのである。

2009年10月下旬から11月上旬に、「藤沢町教育交流ベトナム訪問団」一行14人がホーチミン市に滞在し、「在ベトナム藤沢会」の発足を見届けた。

この私たち一行14人の内、6人の男女が藤沢岩手ライオンズクラブ会員であった。

私たち一行は現地の若者たちから大歓迎を受けた。藤沢町でホームステイした人たちだから互いに顔馴染みだ。

私がホストファミリーを務めた時の2人のホーチミン貿易の女子大学生だった彼女らは、25歳のお年頃になっていた。「まだ結婚はしていない」と言う。日本企業に就職し、一生懸命働いているのだった。「仕事が楽しいよ」「貯金に励んでいるよ」とのこと。

さて「爪楊枝」のこと。「貯金に励んでいるよ」というランさんが、私にそっと言った。「日本の爪楊枝を仕入れて副収入を得ているんだ」と。「エッ?」と私。

日本に来て藤沢町の私の家にホームステイして、爪楊枝の便利さとすばらしさに魅せられたのだという。東南アジアの各地の爪楊枝と比較して、日本製がずば抜けて優良なのだった。

さすが貿易大学の学生である。ひそかに日本の爪楊枝を仕入れて、現金による取り引きを徹底させているから、損はしてないのだそうだ。

歯のそうじのほかに果物や食品の添え物、精密物品の手入れ用、刺繍のための補助物、工芸工作の物品、装飾用の細工物等、多目的な用途に活用されていたのである。

ベトナム人は、日本人同様に手先が器用で細かい作業に根気強く励むことが出来る、と評されている。確かにベトナム戦争以後の若者にも、その粘り強い民族性が受け継がれていた。

「お父さん（私のこと）にプレゼントです」と爪楊枝を使った美しいハロン湾（世界自然遺産）の風景をあしらった刺繍を手渡された。「カムオン（ありがとう）」と私はお礼の言葉を述べた。

ホーチミン貿易大学の関係者やベトナムの若者との再会を約束して、私たち一行は首都ハノイへ移動した。政治の中心地である。経済の中心地のホーチミンと雰囲気が違うが、道を走り回るオートバイの洪水の様子は変わりない。

フランス統治時代の建物を今なお使い続け、町並みもフランス風が見てとれた。ハノイの都市計画の実行はこれからということであった。主な交通手段として地下鉄網の構想が練られているそうだ。早く実現してほしいと思った。

何とハノイで、爪楊枝に関する一件に出くわしたのであった。

私たちは、帰国する当日の夕食をハノイでの一流フランス料理店でとった。フランス風らしく前菜から料理が運ばれた。若いウエーターが担当している。

そしてメーン・ディッシュの皿が運ばれて来た。私はフォークとナイフで肉を口にした。と、対面(といめん)のH女史が小さく驚きの声をあげた。「どうしました?」と私。

「爪楊枝が入っているわ」。50代のH女史は藤沢町を代表する女性経営者。館ケ森アーク牧場の牧場長である。ベトナムとの教育交流のスポンサーでもある。

ハノイのフランス料理店の顛末は省くが、H女史の大袈裟にしない意思表示で穏便にすませた。爪楊枝が日越の交流に凶とならないように祈った私であった。そしてベトナムも早く一等国になるように奮励努力してもらいたいと思った。

クラブ例会活性化 川柳例会によせて

南井 繁樹（滋賀県・近江守山）

私たちは、ライオンズの一員である前に、弱い、不完全なる人間である。例会や奉仕に出掛けるには、大義名分として小さなものであるが「出席へのモーション」が必要となる。このモーションこそ日々の家庭生活、勤労の生活の中で養われる社会性の強い奉仕意欲と例会、アクティビティの意義と面白さではないかと思うのである。テール・ツイスターやライオン・テーマー、会長、幹事、副会長、各委員会が会員のために良かれと企画する運営が、実に大切になってきている。

ストレス、不況、倦怠感は、欠席や退会に結びつきやすい。私のクラブでは、例会出席の平均が90％近くになるよう努力を続けている。その中の一つが、表題の「川柳例会」である。

初代会長であった父の後を継ぎ、2世会員として入会して5年目、財務広報委員長（当クラブの30周年時）の時に第1回目の「川柳例会」を企画した。過去には、俳句の会もあった当クラブではあるが、「川柳」の自由奔放な詠み方が、メンバーの方々には面白く、過去20年の間に4回開催。自選、他選、俳人評と詠歌力を培ってきた。地巻のごとき駄句、迷句、愚選の中で、スキルは少しずつ上がってきていると思う。

100年に一度の不況、社会、経済、政治すべてに閉塞感の漂う平成の世にふさわしい名句がなどと自負している次第である。今回も結構メンバーの方々に喜んで詠んで頂けたので、『めいく衆』を作成した。メンバー互選評、俳人（亀村山去元当クラブ会員）による俳人評と合わせ、ご一読頂けたらと思う。更に他クラブの方々への良き波及効果があればと切に祈願している。

獅子吼

カンボジアの子どもたちを、地雷・不発弾被害から救うために！

竹之内　勇（神奈川県・小田原松風）

2009年11月18日、カンボジアの首都プノンペンにあるカンボジア地雷処理センター（CMAC）本部において、現地で地雷・不発弾処理活動をしている日本地雷処理を支援する会（JMAS）に対する支援機材の贈呈式が行われた。

これは330‐B地区が2年前から取り組んでいる、JMASに対する人道支援活動の一環である。今回は、2008‐09年度のLCIF・人道支援委員会が中心となって各クラブに協力を呼び掛け、集まった募金500万円とLCIF一般援助交付金500万円を合わせた1千万円を元に、JMASの事業計画に沿った支援機材（ピックアップ型車両3台、牽引ウィンチ等車両装備品）をJMASカンボジア事業所に贈呈。地雷・不発弾処理の迅速化を図り、事故を減少させ、地域住民とりわけ将来を担う子どもたちの安全と平和な生活環境をもたらすことを目的とした人道支援活動である。

当日は、330‐B地区から桜井孝一前地区ガバナーを始め、前期と今期のLCIF・人道支援委員会のメンバー7人を含む総勢24人が出席した。

午前7時30分、JMASカンボジアが用意した専用マイクロ車両4台に分乗した我々は、ホテルを後に一路CMAC本部へ赴き、まずオム・ポメロCMAC副長官を表敬訪問後、CMAC側からカンボジアにおける地雷・不発弾による被害の現状と処理活動状況について説明を受けた。

ベトナム戦争と内戦の結果、カンボジアは全土にわたり地雷・不発弾に汚染され、農村部を中心に多くの被害事故が起きている。処理活動に対するJMASの協力により被害は減少しているが、今も年間270人（08年）が死傷被害に遭い、その内35％が子どもたちという悲惨な状況である。

そのためCMACは、「2015年事故ゼロを目標」に処理能力の迅速強化を目指しており、JMASに対しても処理活動の加速化と作業の効率化を求めている。

午前8時20分、CMAC本部の正面広場に関係者一同が集合、贈呈車両3台も配列された中で贈呈式が開始された。

時折強い風が吹く中、両国国旗の掲揚、国歌の演奏に続いて贈呈品の目録が、桜(ライオン)井孝一からJMASカンボジア古賀英松統括代表へ贈呈された。

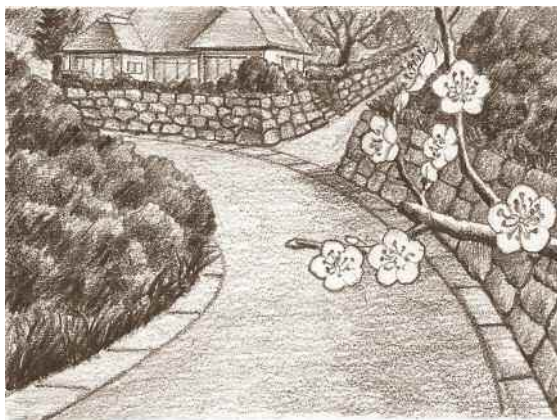
次いで贈呈側を代表してあいさつした桜井前ガバナーは、

「我々は、カンボジアにおいて地雷・不発弾の撤去活動をしているJMASを支援するため、ライオンズクラブ国際協会330‐B地区の支持を得て、広く地域社会に広報・募金活動を行ってきました。更にLCIFの協力も得て今回活動車両と機材を贈呈させて頂き大変うれしく思います。カンボジアにおける地雷・不発弾事故から、未来を担う夢と希望に満ちた子どもたちを守ることは我々の強い願いであります。

JMASのこの崇高な活動が今後も効率的かつ安全に行われることを期待すると共に、我々もこの人道的支援活動をこれからも継続出来るよう協力してまいりたい」

と決意を表明。一方、受贈側を代表してあいさつした古賀代表は、

「JMASカンボジアの活動目的は、カンボジアにおける地雷・不発弾の回収処理を行うことにより、国土と国民を地雷・不発弾の脅威から解放し、国の復興発展に寄与することであり、我々はこの活動に誇りと使命感を持ってがんばっています。

我々がカンボジアの復興のために活動出

来るのも、ライオンズクラブ国際協会330-B地区並びにLCIFのご支援の賜物であり心から感謝と御礼を申し上げます」と謝意を表明。

また来賓としてあいさつしたオム・ポメロCMAC副長官並びにチュム・ブンロンCMAC事務総長は、JMAS及びライオンズクラブの友好的かつ人道的な支援に対し深甚なる謝意を表明すると共に、両国が末永く親密なパートナーとして共同関係を持続することを期待した。

最後に式典参加者全員による記念写真を撮影し贈呈式は無事終了した。

休む間もなく、我々は専用マイクロ車両でJMASの現地事務所に移動し、着替えの後、プノンペンの南方にある不発弾処理現場視察のためカンダールに向けて出発した。

車窓から見る街並みが商店街から住宅地へ、更に田畑・雑草地へと移り変わり、1時間程で目的地に到着した。そこでは、JMASの指導者とCMACの隊員たちが地元住民を集めて不発弾処理のための啓発活動を行っている最中で、大人も子どもも隊員の説明を熱心に聴きながら事故防止の重要性や対処法を学んでいた。

その後、不発弾が見つかった場所や実際に不発弾を爆破処理する現場を視察するため、我々全員に防護衣と防護ヘルメットが渡され着用することとなった。気温30度を超える中での厚く重い防護衣とヘルメットの着用は過酷なものであったが、処理隊員の苦労が十分理解出来る貴重な体験でもあった。

不発弾は戦後30年以上経過しているためさびているものもあるが、爆発の危険度は高く油断は禁物とのこと。回収した不発弾を1カ所に集め、穴に埋めた後、火薬を使って爆破させ処理するが、危険を避けるため我々が安全地帯まで避難した後、爆破処理が実行された。

不発弾処理を視察して帰路に向かう我々の車に、手を振りながら近づいて来る7~8人の裸足の子どもたち。言葉は通じなくても彼らの顔は明るく無邪気で、澄んだ目がキラキラと輝いていた。

彼らを見ていると、我々ライオンズクラブが行っている支援活動は決して間違ってはいない、これからも彼らを地雷・不発弾事故の被害から守り、救うための人道支援活動に出来る限り協力していきたいと痛感した一日であった。

Close up

U50

例会後も電話で続くガールズトーク

【入会のきっかけ】親戚同然のお付き合いをしていた弟の恩師が、「雅子ちゃんは音楽一筋できて、世間知らずだから、ライオンズに入って社会勉強をしなさい」と誘ってくださったので、難しいことは考えず入れて頂きました。

【入会してみて】一人ひとりがいきいきとしていてすばらしいクラブでしたから、全く違和感なく、いつの間にか溶け込んでいました。女性同士だと話が尽きないんですよ。例会から帰ってからも、電話で話を続けたりして。中学生か高校生のノリですね（笑）。会員は30代から70代後半まで年齢層は広いんですけど、皆さん天真爛漫で、居心地最高です。父はロータリークラブに入っていたんですが、年齢的な理由で退会したんです。でも、うちのクラブを見ていると、ライオンズだったら、まだ楽しく活動出来ていたんじゃないかなあ、なんて思いました。

【ライオンズで力を入れていること】地区にライオンズクエスト委員会が出来て、クラブにも委員を出すよう要請があったらしいんです。その時、クラブの理事だったんですが、理事会で「雅子ちゃん、キャビネットで修業してきなさい」とお尻をたたかれ、「修業」に出されました（笑）。しかも、いきなり副委員長で……。でも、年度が始まってすぐに委員会の皆さんとワークショップに参加して、そのすばらしさと必要性を実感しました。以来、3期連続で務めさせて頂き、またプログラム説明員の資格も取りました。333-C地区のセミナーはもちろんなんですが、333-A地区にも呼ばれてご説明に伺ったことがあります。10回以上のセミナーで担当させてもらっています。そんな中で、実際に銚子でのモデル校導入を良い形でお手伝いすることが出来ました。大変は大変ですが、やりがいのある活動です。

【今後の抱負】演奏をする時、空気感を意識するんですが、ライオンズクエストのセミナーをやっていても、会場の空気がすぐに読めてしまうんです。それで、退屈そうな人がいると自分が引きぎみになってしまったり……。日々勉強ですね。何と言っても「修業の身」ですから（笑）。それと、新しい会員がなかなか入ってこないので、積極的に声掛けをしていきたいと思っています。それには、私自身が楽しく活動している様子を話したり、見せたりすることが基本かな、と。そのためにも、ライオンズクエストをがんばっていきたいですね。

【先輩会員（波木奏美リジョン・チェアパーソン）から】「修業も必要よ!!」と、クラブで背中を押され、キャビネットに足を踏み入れて2年半が過ぎている。今はライオンズクエスト・プログラム説明員となり、優しく、時にはたくましく活動し続けている。家では良き妻、加えて声楽家としてプロ活動も怠りない。

■橋爪雅子

はしづめ・まさこ　千葉市出身。国立音楽大学声楽家卒業。尚美学園ディプロマコース修了。声楽家（メゾソプラノ）。2002年1月千葉ゆうきのライオンズクラブ入会。05-06年度クラブ幹事、07、08、09年度333-C地区ライオンズクエスト副委員長。ライオンズクエスト・プログラム説明員。日本演奏家連盟会員。

写真・構成／鈴木秀晃

※Close up U50（Under50）は50歳未満の若手会員に焦点を当てた企画です。
クラブに当欄で紹介したい若手のホープがいらしたらご推薦ください。

ippin おすすめの

第7回　滋賀県長浜市木之本

◉

サラダパン

琵琶湖の北にある木之本は、かつて北陸と近畿を結ぶ北国街道の宿場としてにぎわった町。合併により今年元旦から長浜市の一部となった。紅殻格子の古い商家が残り、落ち着いた風情を残すこの町に今、近畿地方はもとより全国から注目を集めるｉｐｐｉｎがある。今年で創業59年目になる、つるやパン（社長／L西村豊和）の人気商品「サラダパン」だ。静かな旧街道沿いにある店には、週末ごとに県外ナンバーの車が列をなす。３年前に始めたネット販売には全国から注文が入り、品薄状態になることも。見た目はごく普通だが、中に挟んである具はタクアン。そのミスマッチが人気の秘密だ。

50年前に先代が発売したこのパン。初めは刻みキャベツをマヨネーズで和えた具で、文字通りのサラダパンだった。でもキャベツはすぐ水っぽくなるし日持ちも悪い。そこでひらめいたのが、L西村の母智恵子さん。台所にあるタクアンを使うことを思いついた。

それから半世紀にわたって地元で愛されてきたサラダパン。ナビゲーターも子どもの頃、おやつによく食べていたと言う。ご当地グルメ・ブームの影響か、数年前からたびたびメディアで取り上げられるようになった。何でも、あるテレビ番組の司会者が「こんなまずいもん作ったらアカン！」とコメントしたのをきっかけに、人気に火がついたとか。

「地元で50年も親しまれてきたロングセラーですから、まずいことはないはずですよ」と言うナビゲーターに、L西村は「まずくはないけど、ものすごくうまいもんじゃないです。期待しすぎずに食べてください。だってコッペパンにタクアンですから……」。そう言われて食べてみると、これが意外においしいのだ。ほんのりしたパンの甘味にタクアンの塩気がほどよく合って、シャキシャキした食感もおもしろい。

「この頃は県外に出張で行く時に『お土産にサラダパンを』とリクエストされることがよくあるんです」とナビゲーター。もはや滋賀県を代表する名物なのである。

●今月のナビゲーター

中村喜隆

滋賀県・木之本ライオンズクラブ。元レオクラブ会員。チャーター・メンバーだった父の後を継いで96年に入会。中萬商事(株)代表取締役。木之本町商工会副会長。

宮城県気仙沼市

最高級の代名詞「気仙沼産」は、残さずすべて使い尽くす

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

サメのメッカに「サメ漁」はない

　暖流の黒潮と寒流の親潮が交差する世界三大漁場の一つ三陸漁場を抱える気仙沼港。年に12万㌧前後の水揚げがある全国有数のこの漁港では、メバチやビンナガといったマグロ類からメカやマカのカジキ類、カツオにサンマといった大衆魚まで、実にさまざまな種類の魚を見ることが出来る。特に生のカツオは12年連続で全国一の水揚げを記録しており、9月から12月初旬に揚がる脂の乗ったものは「気仙沼の戻りカツオ」として引き合いも多い。サンマの水揚げも全国上位クラスだ。その昔、サンマを山積みにしたトラックがカーブを曲がる時、荷台からバラバラとサンマが落ちたが、野良猫ですら見向きもしなかった……それほどサンマがたくさん穫れたという、この手の話を町で何度か耳にした。

　しかし、気仙沼と聞いて真っ先に思い浮かぶのは、何と言ってもフカヒレの原料となるサメであろう。それもそのはず、国内の7割を占める1万8千㌧のサメが、この漁港に水揚げされる。圧倒的に多いのはヨシキリザメで、全体の約80％。次いでモウカザメが約15％で続く。この2種がほとんどを占め、ヒレというヒレがフカヒレに加工される。ご存じの通りフカヒレは中華料理の高級食材。中国では魚翅（ユイチー）と呼ばれ、古来、干しアワビ、ツバメの巣と共に中国三大高級珍食材に数えられる。庶民の口には滅多に入ることのない高級品であるが、本場中国にも最高級品「気仙沼産フカヒレ」として輸出されている。

　サメの入札が朝7時から始まるというので、気仙沼漁港へ向かった。サメは年中穫れる魚で、この日もヨシキリザメ12㌧と、モウカザメ300本（モウカザメはこう数える）が揚がっていた。多い時で1日に80～100㌧というから、この日は控えめな方である。

　目の前のサメの山を眺めながら、意外な話を聞いた。

干し場が設けられるのは、きまって寒風の通り道

「これだけのサメが並んでいますが、サメ漁というものはありません」

　声の主は気仙沼漁協の伊藤高幸さん。どういうことかというと、気仙沼では近海マグロの延縄漁業が盛んで、そのマグロを追って来るサメが混獲される。つまり、サメはマグロ狙いの外道なのだ。ところが気仙沼は、フカヒレを始めサメを原料とする水産加工業が盛ん。混獲されたサメの受け皿港として他の市場より良い値が付くので、この港にサメが集まってくるのだ。

入札が終わるやいなや、ヒレを切り取る作業が始まった

入札が終わるやいなや、サメ山にフカヒレの加工業者が集まり、尾に背、胸、腹と、手際よくサメのヒレを切り取っていく。フカヒレの質は鮮度が大きく左右するのだ。

気仙沼産が最高級であるゆえん

空気が乾燥し、冷たい風が吹き始めると、フカヒレの天日干しが最盛期を迎える。日光と寒風に約2カ月間さらされ、カチンコチンに固くなったフカヒレは、そのまま料理店に納品されることもあるが、多くは工場で加工される。一度湯水に漬けて柔らかくし、皮を剥がして骨を取り除くなど、完成までに膨大な手間と時間を掛けた後、ようやく独特の黄金色に輝く高級食材となる。

もちろん、鮮度の良い生のサメから素早く切り取ったヒレそのものの素材の良さもあるが、皮や骨を奇麗に取り除き、臭みを取るという高い技術こそが、気仙沼産フカヒレの質を決定している。

気仙沼には、フカヒレ加工に長けた製造会社が多く集まっている

本場中国の料理人も認める最高級品。特にヨシキリザメのものは評価が高い

フカヒレには味がない。味付け次第で、うまくもまずくもなる

「延縄漁に適していた気仙沼は、昔からマグロに混じってサメが揚がっていました。サメが揚がるから、それを扱う加工業者の技術が発展したという経緯があります」

と話すのは、フカヒレの製造会社を営むライオン臼井弘(気仙沼ライオンズクラブ)。

もともと日本ではサメ肉を食べる文化があったが、使い途のないフカヒレは捨てられていた。ところが清の時代、長崎の出島辺りから「清国ではフカヒレを食べる。しかも相当な高級品である」という情報が伝わってきた。

そこで、同じく高級食材であった乾燥「海参(ナマコ)」「鮑(アワビ)」と共に「翅(フカヒレ)」を俵詰めにした、いわゆる「俵物三品」が中国向けに輸出されるようになる。これらの乾物は、江戸中期以降、中国との交易における中心的な産物として、金や銅の代わりになる輸出品に位置付けられていた。

ところで、意外に知られていないのがフカヒレの味。乾物なので当然良い出汁が出るものと思いきや、このフカヒレという食材、ほとんど無味無臭である。言うなれば、他の味を吸い込む「ゼラチン質の媒体」というところだろうか。だから料理をする人の味付け次第でおいしくもなるし、まずくもなる。もともと中華料理の素材であるため、干したエビやアワビなどと一緒に煮込んだ出汁にオイスターソースなどで味付けされることが多いが、最近では和食にも使われるようになった。気仙沼市内には、扇形の形状が美しいヒレの姿煮を寿司ネタにするお店も増え、これを目当てに気仙沼を訪れる観光客も少なくない。

サメには捨てるところがない

一時期、商品価値のあるフカヒレを採取した後、魚体を海に投棄するケースが国際的に問題になったことがあったが、気仙沼の人たちは口をそろえてこう話す。

「サメには捨てるところがない」

と。サメを全身余すところなく加工し活用することに関しては、気仙沼の人々は天才かもしれない。サメ肉がはんぺんや蒲鉾といった練り製品の原料になることはよく知られるが、最近では、ハンバーガーやナゲット、スナック菓子、刺身など新しいメニューが続々と登場している。また、他の魚であれば間違いなく捨てるはずの骨からは、美肌の素となるコンドロイチン硫酸という成分を抽出し、健康食品や高級化粧品に加工している。

シャークスキンはさまざまな製品に加工される

ヨシキリザメに限れば、その皮を丹念になめすことで、皮革の中でも高級品で知られるシャークスキンが得られる。「鮫肌」という言葉からは想像出来ないような良い質感の皮は、見た目に美しいだけではなく、牛革の約6倍もの強度があるという。傷も付きにくいため、財布やバッグといった製品に加工される。そんなに丈夫なサメ皮であるが、一方で、生皮に熱を加えると、簡単に溶けてしまう。このどろどろになったゼラチン質の正体はコラーゲン。これをコラーゲンジャムとして販売しているのが、設備工事関係の仕事を営むかたわらヨシキリザメの有効活用に力を入れる渡辺海司氏。

「サメは他の魚類にはない、人間に大切なコラーゲン、コンドロイチンを補給することが出来る貴重な魚。フカヒレの影で利用されていない部分にもっと光を与えられたら」

と、大きな期待を寄せている。

郷土自慢・クラブ自慢

気仙沼ライオンズクラブの郷土自慢は「氷の水族館」。カツオやサンマといった気仙沼を代表する80種類、450匹に及ぶ魚介類を新鮮な状態で氷漬けにし、展示している観光施設だ。神秘的な照明と音響に迎えられ館内に足を踏み入れると、そこはまるで海底の世界。目の前には、特別な製氷技術で1週間かけて凍結させた40個の氷柱がずらりと並び、今にも魚たちが元気に泳ぎ出しそうだ。館内中央には、南極観測砕氷艦しらせが持ち帰った「南極の氷」も展示されており、見る者を飽きさせない。ただし、この場所は常時マイナス20度の世界。長居するにはちょっと忍耐が必要である。

▼気仙沼ライオンズクラブ（加藤勝三会長／77人）＝1961年12月3日結成／スポンサー：仙台青葉ライオンズクラブ

読者プレゼント

気仙沼の「ふかひれスープ」を5人に

「ふるさと探訪」(51ページ)で紹介した宮城県・気仙沼産のふかひれを使った「ふかひれスープ」が気仙沼ライオンズクラブ(加藤勝三会長／77人)から5人の読者にプレゼントされます。

気仙沼はふかひれ生産量日本一。スープは濃縮タイプで、本格的なふかひれスープが手軽に楽しめます。写真の4袋をセットにしてプレゼント。

写真集『球美の海』を5人に

本誌2月号表紙をダイナミックに飾ったのはザトウクジラ。その勇姿を撮影したカメラマン川本剛志氏から写真集『球美の海』が5人の読者にプレゼントされます。久米島に住む海の生き物たちを生き生きと鮮やかにとらえた作品が収められています。

応募要領：はがきに「ふかひれ」「球美の海」と明記し、住所、氏名、電話番号、クラブ名をご記入の上、ライオン誌プレゼント係あてにご応募ください。本誌ウェブマガジン(www. thelion-mag.jp/modules /inquirysp /index.php?op=0)からも応募可。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は3月末日。応募多数の場合は抽選。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

ライオン誌投稿要領

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。

▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。

▼住所、氏名、クラブ名を明記。

■**クラブ・リポート**32〜42ページ：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。関連写真があれば添付。

■**獅子吼**43〜47ページ：会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。

送付先：
〒104-0045
東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階
ライオン誌事務所
Fax：03-3546-2630
E-mail：edit@thelion.jp

築地通信

●健全な森を作ることは大切なことだと思う。戦後、積極的に植林されたスギやヒノキの多くが放置され、今や国民病とも呼ばれる花粉症を引き起こしている。ドングリを食料にしていたイノシシやクマは食料が減って人里へ降りてくるのだと聞く。私は東京在住だが、ちょっとした雨で水があふれたり、夏の炎天下に強烈な照り返しの中を歩いている時など、アスファルトをはがして土の地面や大きな木陰を作る樹木を増やせばいいのにと思う。森や木々の水質及び空気の浄化、保水、更に防火、耐震といった力を都会でも地方でも、もっと享受出来たらいい。木を植えるライオンズの活動の輪が広がっていくことを願う。(やなせ)

●**訂正とお詫び**

2月号26ページ「新結成クラブ」に掲載した北海道・釧路ゆうやけライオンズクラブの結成日は、正しくは11月28日でした。

ライオン誌事務所来訪者芳名録

1・5 埼玉県大宮見沼 武藤 博昭
1・17 東京駿河台 芦沢 真
1・27 兵庫県神戸みなと 団 英男
1・27 千葉県市川 吉原 稔貴
1・28 東京 池崎 道男
1・28 千葉県流山 皆川 春安

2010年4月号予告

THEME **LCIF**

ライオンズクラブ国際財団(LCIF)はライオンズのプロジェクトに交付金を提供し、クラブがより大規模な人道奉仕に取り組めるよう支援する。日本のライオンズによるLCIF交付金事業をレポート。マレーシア、フィリピンでの活動の他、日本国内での交付金事業も紹介。

編集室

桜前線

ライオン誌日本語版委員
◉
小田邦雄（岡山西）

桜前線は、今頃どこまで進んでいるでしょうか。

春の足音が次第に大きく聞こえ始め、一斉に美しい花を咲かせてくれる桜には、本当に感謝したくなります。もちろん、桜だけでなくさまざまな花たちに感謝です。

花、それは再生と希望の象徴です。私たちライオンズにとって、社会の再生を支援する奉仕活動は主たるドメイン（領域）だと考えます。社会の再生をお手伝いして、そこに美しい花を咲かせること、それが喜びです。私たちのモチベーションのかなりの部分が、そこにあるのではないでしょうか。「花を咲かせる奉仕」、私たちの気持ちにピッタリとくる言葉です。

さて、桜前線は2月に沖縄県を出発して、3月、4月、5月と3カ月間を掛けて本土を進み、6月には北海道を通過していきます。ちょうどこの桜前線と歩調を合わせて、地区年次大会、複合地区年次大会が開催されます。各地区においては1年間の奉仕の花が一斉に満開となります。そしてその大会において、次年度はもっと美しい花を咲かせようと誓い合います。

私たちの奉仕も、毎年新鮮で見事な奉仕の「花」なのです。地域社会の再生は、やがて日本の再生となり、美しい花があちこちで咲くことを夢見て、私たちは奉仕を続けるのです。

私はガバナー就任時のキーワードに「ライオンズに〈再〉の発想を」という言葉を掲げました。厳しい状況の今、ここから新しいライオンズが始まると信じています。

再建、再開、再起、再燃、再挑戦、再登場、再会、再来、再試合、再出発、再認識、再発見、再生……たくさんの「再」があります。一度下降してしまえばもう駄目だ……という世の中は非常に寂しい。我々のこの組織に新しい価値観を加えて、再び世の脚光を浴びる努力をしましょう。きっと美しい花が咲きます。

今ある組織を大切にしつつ、「再」の発想でチャンスをつかみ、乗り越えていこうというのが、大方の会員の願いでしょう。

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages - English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

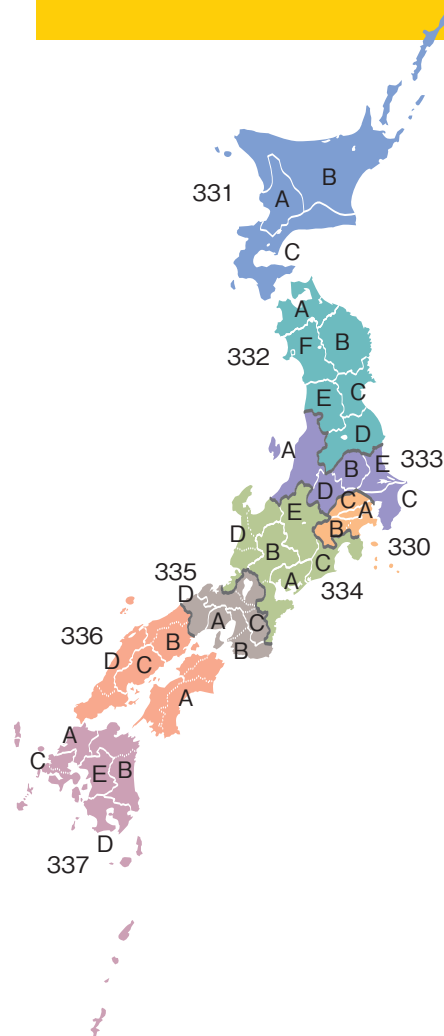
Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571（代）　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ

2009.12.31　ServannA報告による

地区	都道府県	■クラブ数	■会員数	(女性会員)	期首からの入会	期首からの退会	期首からの増減
330-A	東京	200	5,456	(795)	240	224	16
330-B	神奈川·山梨·東京	181	5,175	(523)	248	268	-20
330-C	埼玉	102	2,681	(256)	150	98	52
330	計	483	13,312	(1,574)	638	590	48
331-A	北海道(道央)	77	2,664	(186)	123	96	27
331-B	北海道(道北·道東)	90	2,587	(103)	93	95	-2
331-C	北海道(道南)	59	1,867	(169)	104	79	25
331	計	226	7,118	(458)	320	270	50
332-A	青森	68	1,839	(150)	66	74	-8
332-B	岩手	54	2,179	(565)	115	45	70
332-C	宮城	78	1,487	(103)	69	59	10
332-D	福島	77	2,058	(168)	80	63	17
332-E	山形	58	1,888	(168)	59	56	3
332-F	秋田	51	1,340	(200)	38	49	-11
332	計	386	10,791	(1,354)	427	346	81
333-A	新潟	78	2,882	(206)	101	104	-3
333-B	栃木	57	1,534	(361)	165	35	130
333-C	千葉	132	3,515	(520)	144	155	-11
333-D	群馬	54	2,104	(274)	86	121	-35
333-E	茨城	82	2,949	(274)	103	90	13
333	計	403	12,984	(1,635)	599	505	94
334-A	愛知	120	5,566	(496)	213	210	3
334-B	岐阜·三重	85	3,838	(305)	148	135	13
334-C	静岡	83	3,269	(71)	153	130	23
334-D	富山·石川·福井	99	4,132	(235)	171	141	30
334-E	長野	53	2,139	(159)	69	55	14
334	計	440	18,944	(1,266)	754	671	83
335-A	兵庫(東)	105	2,704	(361)	64	126	-62
335-B	大阪·和歌山	198	6,186	(663)	201	282	-81
335-C	滋賀·京都·奈良	121	4,203	(314)	169	145	24
335-D	兵庫(西)	67	2,135	(212)	75	62	13
335	計	491	15,228	(1,550)	509	615	-106
336-A	徳島·高知·香川·愛媛	155	5,930	(633)	283	257	26
336-B	鳥取·岡山	97	3,288	(259)	134	148	-14
336-C	広島	104	3,778	(202)	140	156	-16
336-D	島根·山口	102	3,335	(217)	176	156	20
336	計	458	16,331	(1,311)	733	717	16
337-A	福岡·長崎	117	4,566	(487)	209	179	30
337-B	大分·宮崎	79	2,447	(142)	121	88	33
337-C	佐賀·長崎	85	3,040	(398)	162	107	55
337-D	鹿児島·沖縄	82	2,513	(201)	179	135	44
337-E	熊本	56	1,625	(138)	66	62	4
337	計	419	14,191	(1,366)	737	571	166
総計		3,306	108,899	(10,514)	4,717	4,285	432
世界のライオンズの		7.2%	8.2%				

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2009.12.31　国際協会集計

ライオンズ国または領域	205
世界のクラブ数	45,834
世界の会員数	1,330,491
期首からの増減	11,565

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	12,696	370,272	-3,688
インド	5,733	186,356	10,892
韓国	2,043	84,042	1,078

ライオン誌3月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　2010年(平成22年)2月20日発行　定価180円　毎月1回20日発行　送料実費76円　第52巻第9号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社

世界中の子どもたちの笑顔が見たい！

300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA
Phone: 630-571-5466　Fax: 630-571-5735
E-mail: lcif@lionsclubs.org
http://www.lionsclubs.org/JA/content/lions_lcif.shtml